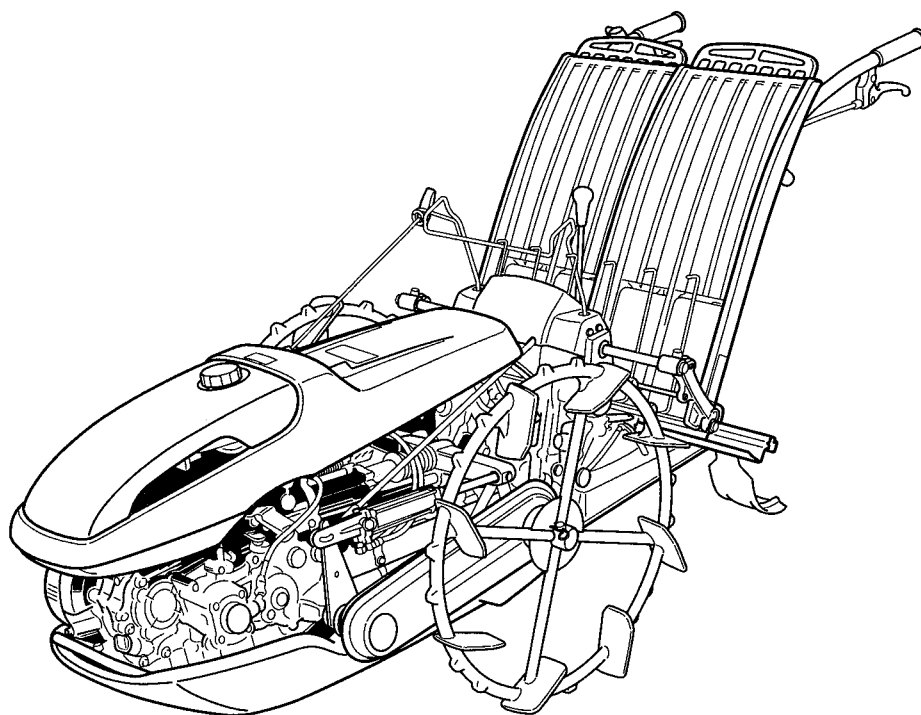
クボタ 歩行 田植機

取扱説明書

JoyWalk
JP2

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

田植機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは、

トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、

火気厳禁します。

エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、

主クラッチレバーを「切」変速レバーを「中立」で行います。

周囲の安全を確認してから行います。

4. トラックへ積み降ろしするときは、

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。

スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。

途中で主クラッチ・サイドクラッチレバーは使用しません。

5. ほ場へ出入りするときは、

スピードを落としあぜに直角に走行します。

途中で主クラッチ・サイドクラッチレバーは使用しません。

6. 田植機を点検整備するときは、

必ず安全な場所で、エンジンを止め、油圧を「下げ」で行います。

7. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。

よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

●この度はクボタ田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

●この説明書は、田植機を使用する際に是非守っていただき、安全作業に関する基礎的事項、田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●田植機を初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●田植機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた先にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本田植機と一致しない場合もありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただいた先にご相談ください。

●取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記のように安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表示	重要度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

◆商品の使用にあたって

本商品は、稲の苗を植付する作業機として使用してください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

PC001-9751-1

はじめに

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記してあります。
お買いあげいただいた、田植機の型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

型式 / 装備	JP2－D	JP2－HD
ジョイモンロー		○
植付指レバー		○
ジョイターン		○
苗のせ台	1.2枚	1.5枚（引き出し式）
可変式ハンドル		○

そこを知りたい時は

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記してあります。
お買い上げいただいた田植機の型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

目　次

安全のポイント

3

各部の名称とはたらき

作業前点検

目 次

運転のしかた

作業前の準備

作業前に必要な調節

作業のしかた

目次

9 点検整備

10 長期格納時の手入れ

12 付表

① 安全のポイント

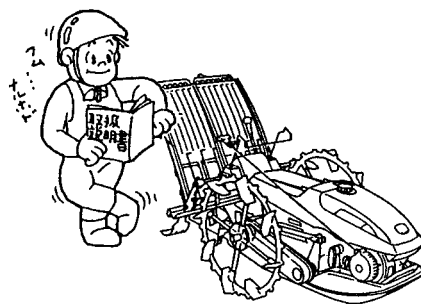
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。
安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 に分類して説明いたしますので、よく読んで理解し、安全作業に努めてください。

非特殊自動車としての取扱い

この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けておりません。従って、一般道路を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

安全な作業をするために

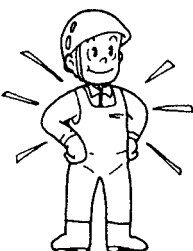
必ず確認してください ••➤ **確認しないとこんな事故になるかも！**

■運転者の条件
この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

⚠警告

◆こんなときは、運転しないでください。
●過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき。
●酒を飲んだとき
●妊娠しているとき
●18歳未満の人

誤作動しやすく、思わぬ事故の原因になります。

⚠警告

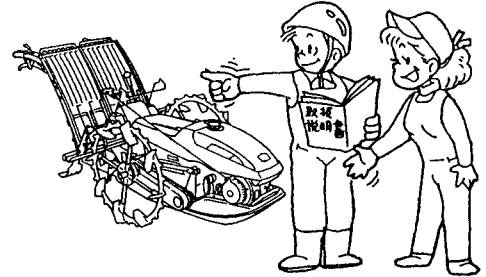
◆作業に適した服装を着用してください。
●はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。ヘルメット、滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。

機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、傷害事故を引き起すおそれがあります。

必ず確認してください ••➤ **確認しないとこんな事故になるかも！**

■人に機械を貸すときは

◆機械を貸すときは正しい使い方の指導

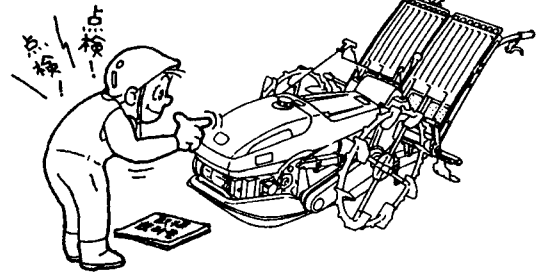
機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。

借りた人が機械の運転に不慣れのため、傷害事故を引き起こすことがあります。

■作業を開始する前に

◆無理のない作業計画で

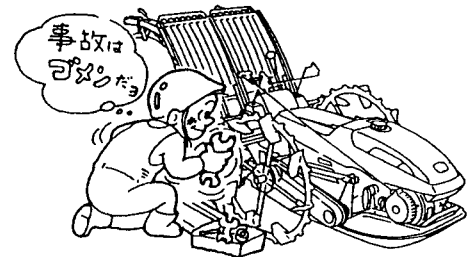
無理のないゆとりのある作業計画をたてましょう。

あせりなどから傷害事故を引き起こすことがあります。

警告

◆点検整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、クラッチのききが悪かったり、クラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

死亡事故や傷害、機械の破損の原因となります。

警告

◆カバー類は必ず取り付ける

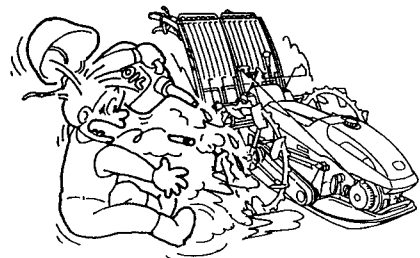
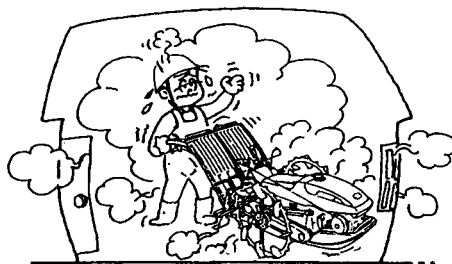
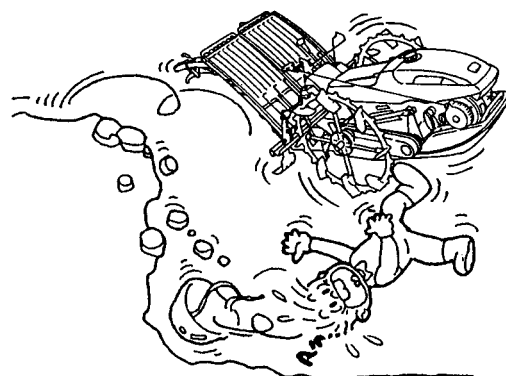
点検・整備などで外した回転部のカバーなどは、必ず取り付けてください。

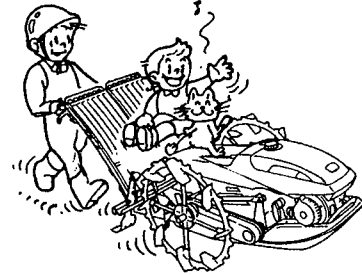
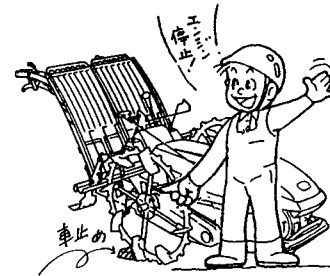
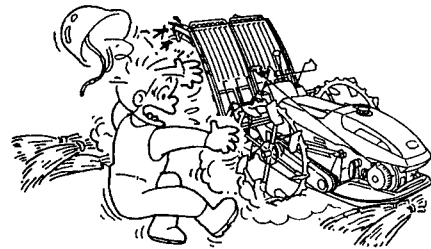
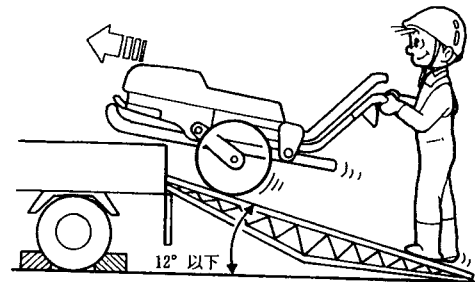
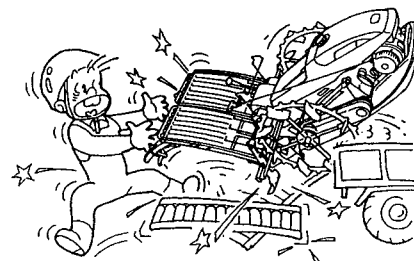
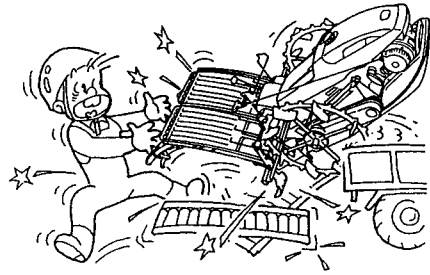
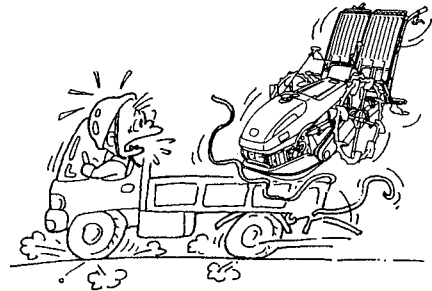
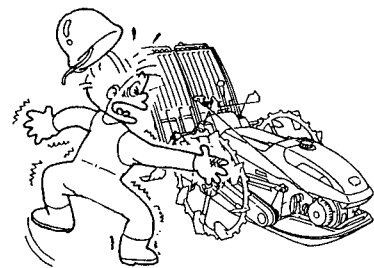
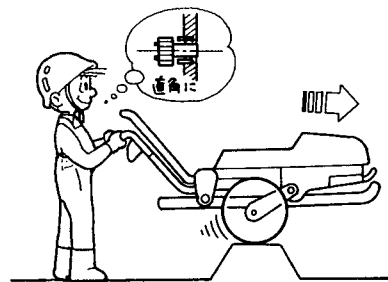
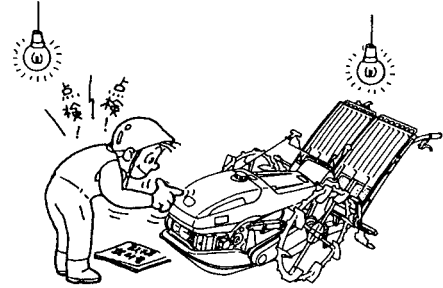
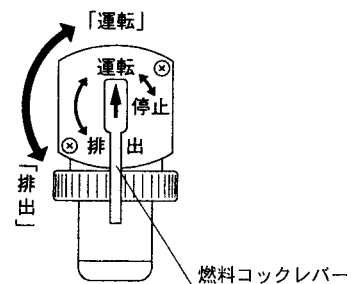
機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすことがあります。

危険

◆燃料補給時は火気厳禁

燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。

必ず確認してください	••➤ 確認しないとこんな事故になるかも！
■エンジンの始動と発進 ⚠ 警告 ◆排気ガスには十分に注意 閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。	排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。
⚠ 注意 ◆エンジン始動時の注意 エンジンを始動するときは変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。	傷害事故を引き起こす原因になります。
⚠ 注意 ◆急発進は危険 田植機を発進するときは、周囲の安全を確認し、田植機の近くに人を近づけないようにしてゆっくり発進してください。	傷害事故を引き起こすおそれがあります。
■移動するときは ⚠ 警告 ●凹凸の激しい場所での高速移動はしないでください。路面状態に応じた安全な速度で移動してください。 ●坂道では急な旋回をしてはいけません。また坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して途中で主クラッチ・サイドクラッチレバーは使用しないでください。 ●側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を移動するときは、速度を落として十分注意して移動してください。	衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

①

必ず確認してください	確認しないとこんな事故になるかも！
危険 ●田植機の上や連結部には、いかなる場合も絶対に人は乗せないでください。	**転落事故を引き起こすおそれがあります。**
危険 ●田植機から離れるときは、エンジンを停止し、車止めをしてください。また、止めるところは広い地面の硬い場所を選んでください。	**傷害事故を引き起こす原因になります。**
危険 ●田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしないでください。	**火災を引き起こすおそれがあります。**
■トラックへの積み・降ろし **警告** ●積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。 ●誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行ってください。また、機械の直前や直後には、絶対に立たないでください。	**転落・傷害事故を引き起こす恐れがあります。**
危険 ●積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「前進」、積み降ろしは「後進」で、ゆっくり行ってください。	**転落事故の原因になります。**

必ず確認してください	確認しないとこんな事故になるかも！
⚠危険 ●積み・降ろし中は、サイドクラッチを操作してはいけません。	**転落事故を引き起こす原因になります。**
⚠危険 ●トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。	**傷害事故を引き起こすことがあります。**
■作業中は 気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。 **⚠危険** ●作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません（特に子供）。 ●作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけ合図してから行ってください。 ●あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。 ●あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。 ●運転中は、植付爪・苗送り等の回転部やエンジン・マフラ等の過熱部など危険な箇所には手を触れないでください。	**転倒、傷害事故を引き起こす原因になります。**
■夜間作業の禁止について **⚠危険** ●夜間作業は危険なので作業は早めに切り上げてください。	**衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。**

必ず確認してください	確認しないとこんな事故になるかも！
■点検・整備 ⚠危険 ●取扱説明書に従って定期点検を実施してください。これは、機械を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業が行える第一歩です。 ●点検や整備に限らず、室内でエンジンを掛ける場合は、窓を開けて換気を十分にして行ってください。 ●点検や整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。 ●点検や整備をするときは、十分な明るさを確保して行ってください。 ●点検や整備を行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。 ●点検や整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。 ●エンジンを切ってすぐに、点検や整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行ってください。 ●点検や整備をするときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。 ●指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。 ●点検や整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。 ●傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消化器を準備してください。	傷害事故を引き起こす原因になります。
■格納・保管時は ⚠危険 ●燃料は必ず抜き取ってください。怠ると、火災の原因になり大変危険です。燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。 ●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。	傷害・火災事故を引き起こす原因になります。

安全表示ラベルについて

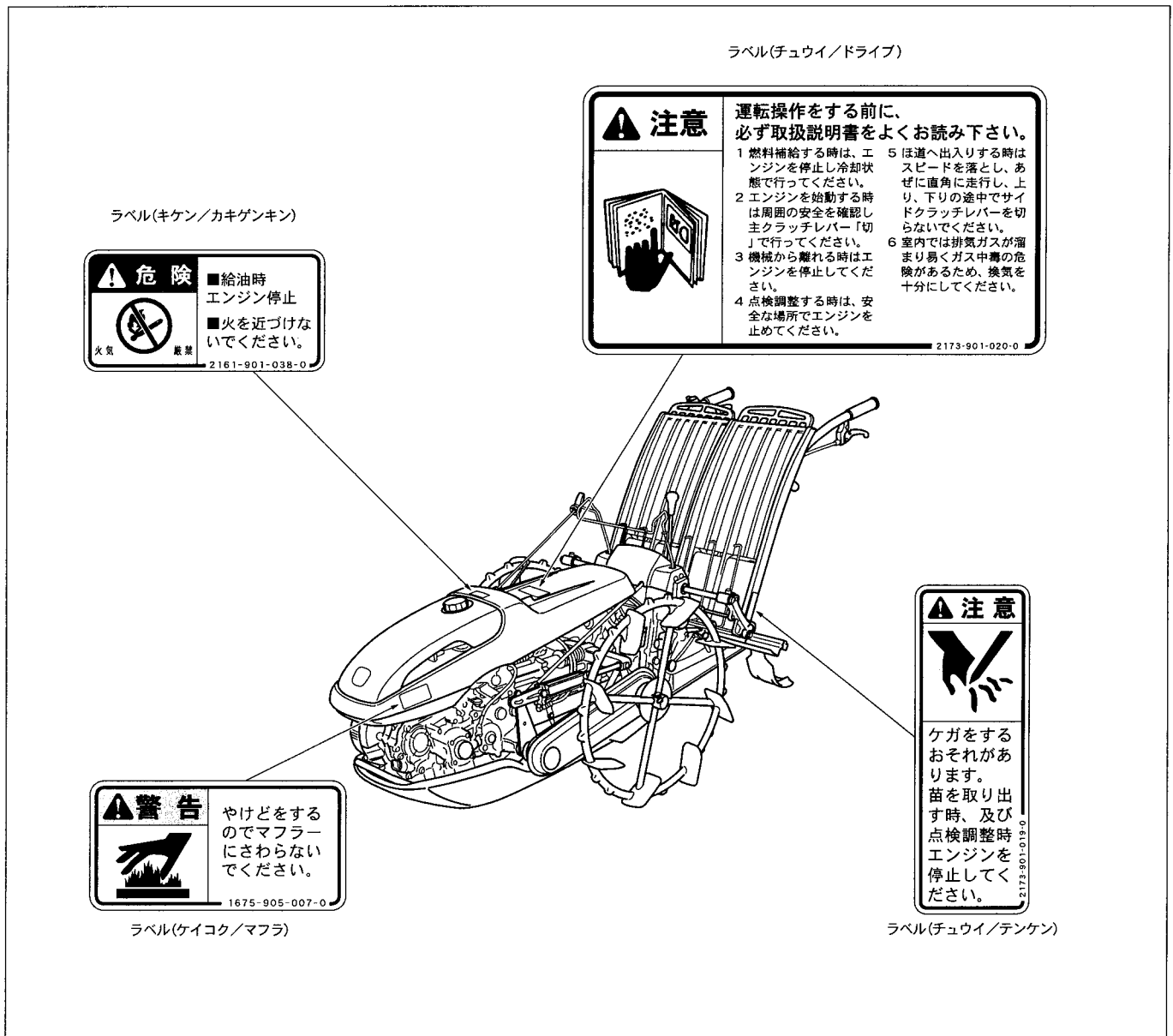
■本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
必ずよく読み、これらの注意に従ってください。

■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買いあげいただいた先へご注文ください。

■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルをお買いあげいただいた先へご注文してください。

■高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。
圧力水を直接ラベルにかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置

② 保証とサービスについて

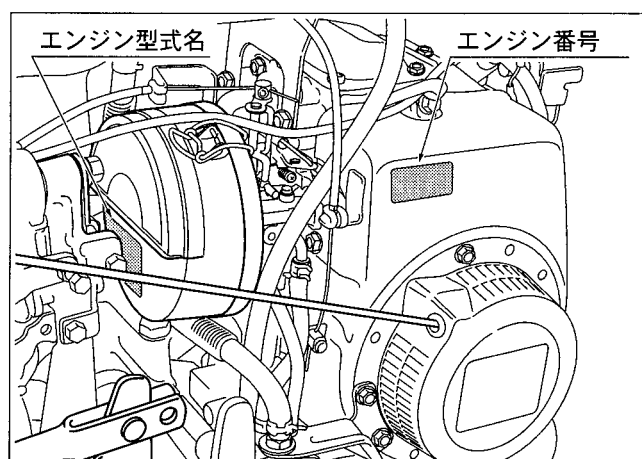
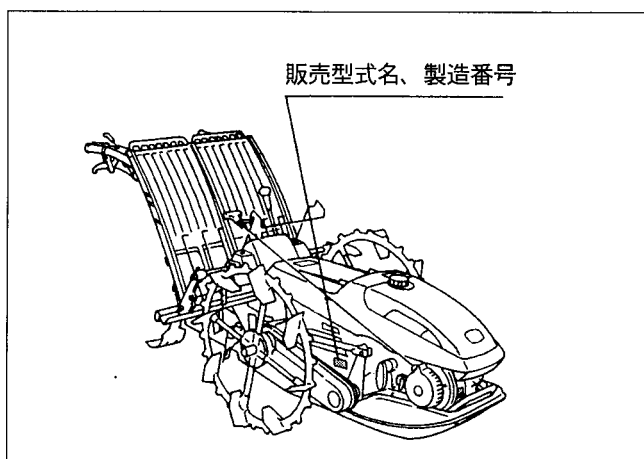
●商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

●サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた先へお気軽にご相談ください。

②

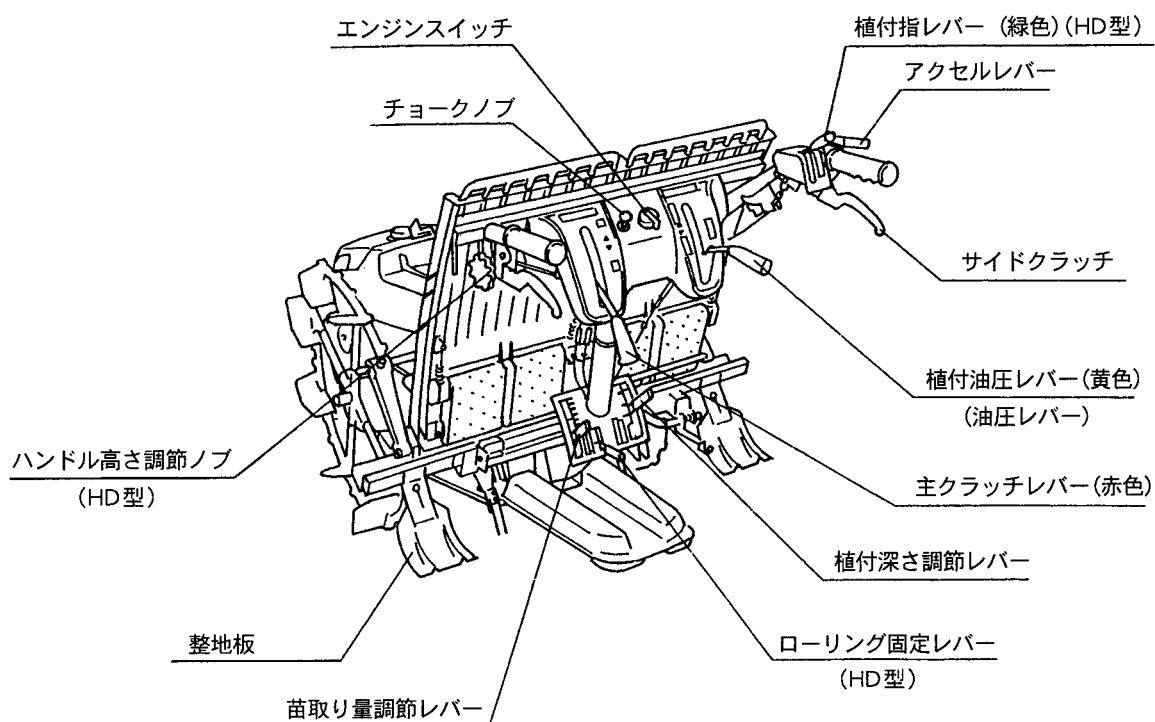
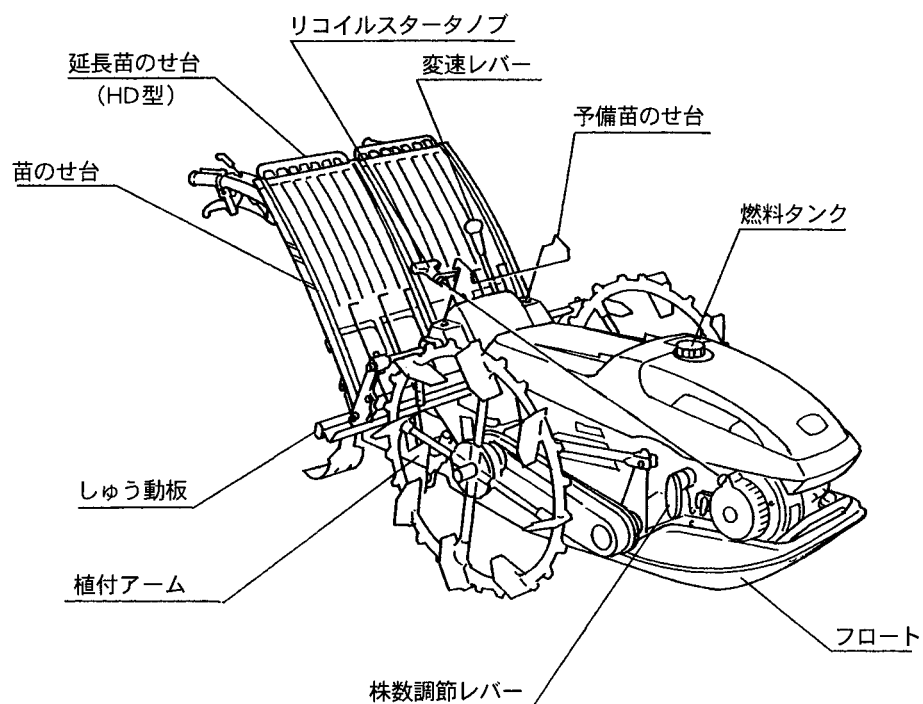
その際、
(1)販売型式名と製造番号
(2)エンジン型式名とエンジン番号
　をあわせてご連絡ください。

●補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

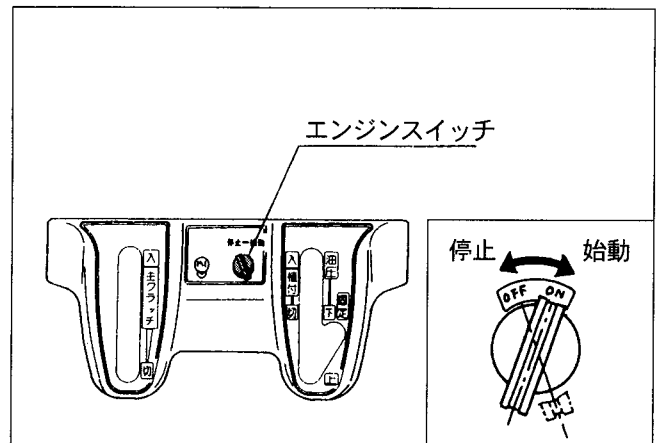
③ 各部の名称とはたらき

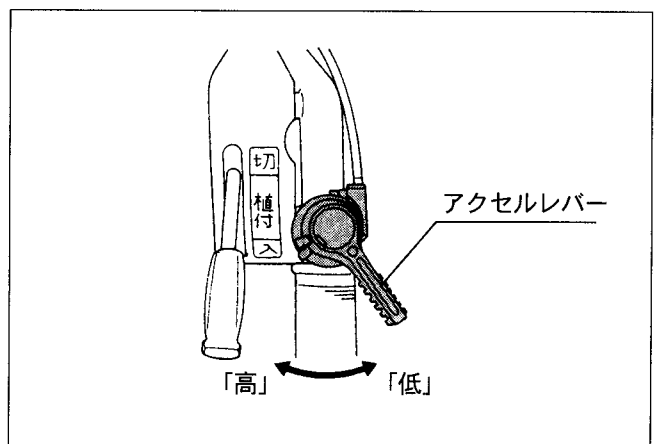
各部の名称

リコイルスタータノブ
延長苗のせ台
(HD型)
変速レバー
予備苗のせ台
苗のせ台
燃料タンク
しゅう動板
植付アーム
フロート
株数調節レバー

各部のはたらき

■エンジンスイッチ

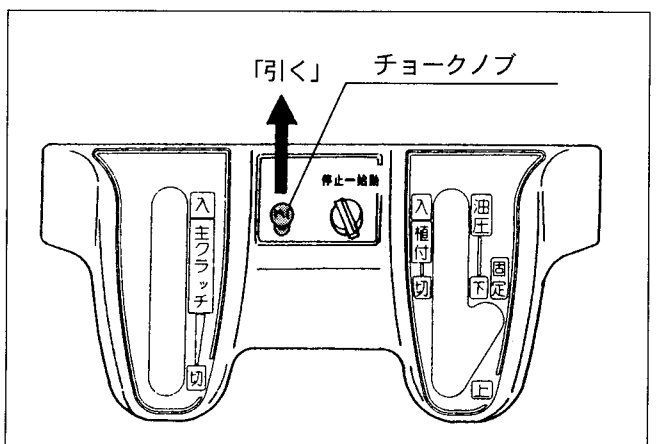
・「停止」……エンジンが停止します。
・「始動」……リコイルスタータノブを引けばエンジンが始動します。

③

■アクセルレバー

・「高」……· エンジン回転が上がります。
・「低」……· エンジン回転が下がります。

■チョークノブ

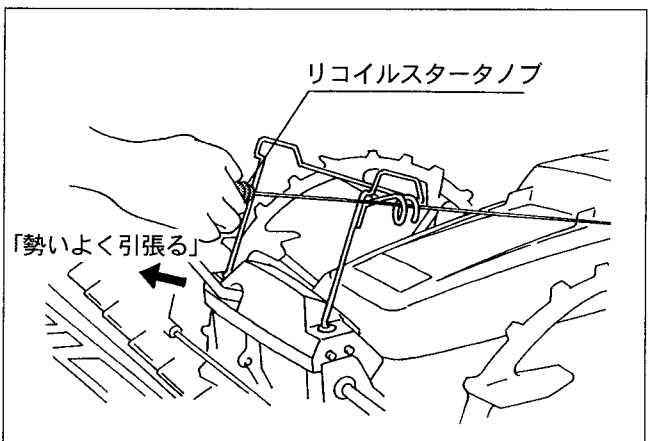
・エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

重要

●**始動時以外は、使用しないでください。**

■リコイルスタータノブ

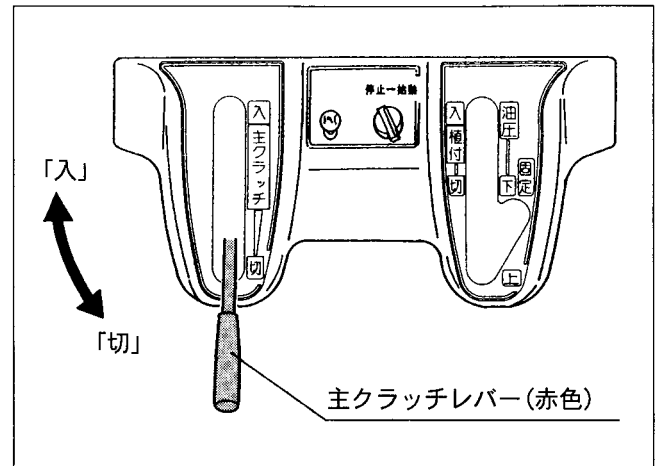
・エンジンを始動する時使用します。

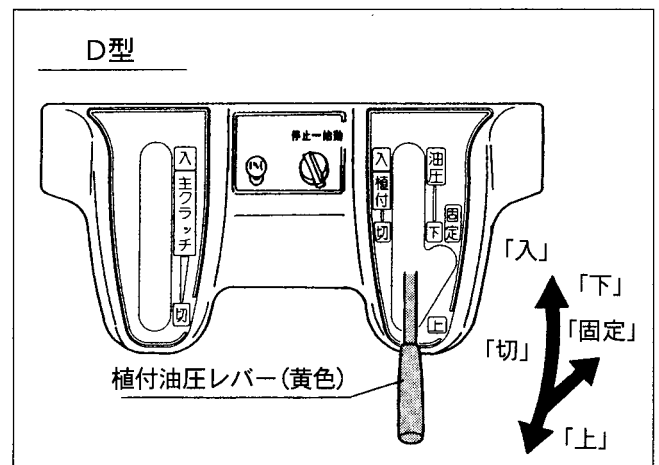
重要

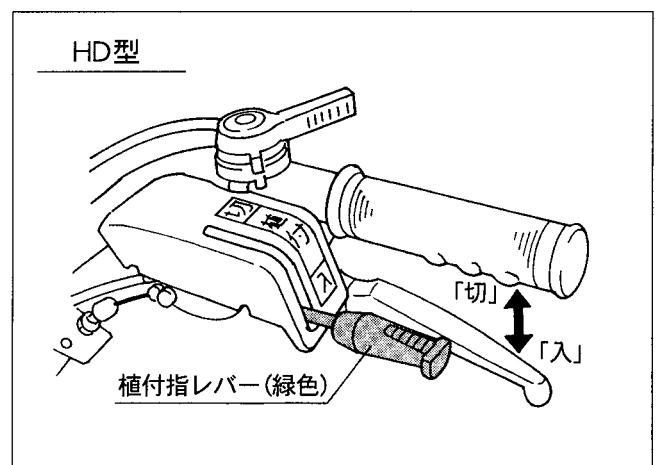
●**エンジン始動後はリコイルスタータノブをゆっくり戻してください。**
●**エンジン始動中は引張らないでください。**

■主クラッチレバー（赤色）

・「入」・・・・・・・ エンジンからの動力が伝達され走行します。
・「切」・・・・・・・ エンジンからの動力が切れ、走行しなくなります。

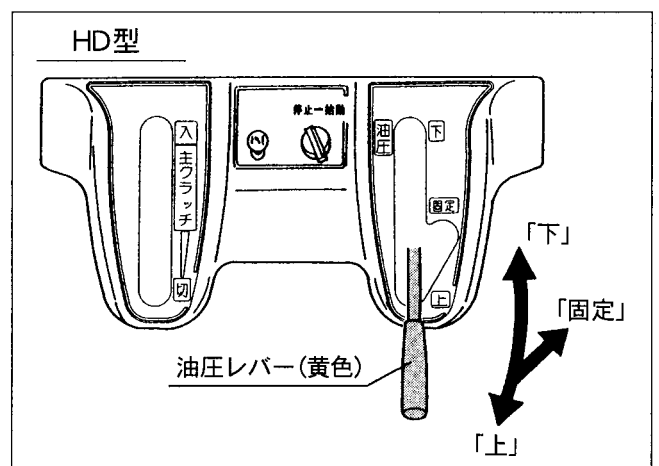
⚠警告

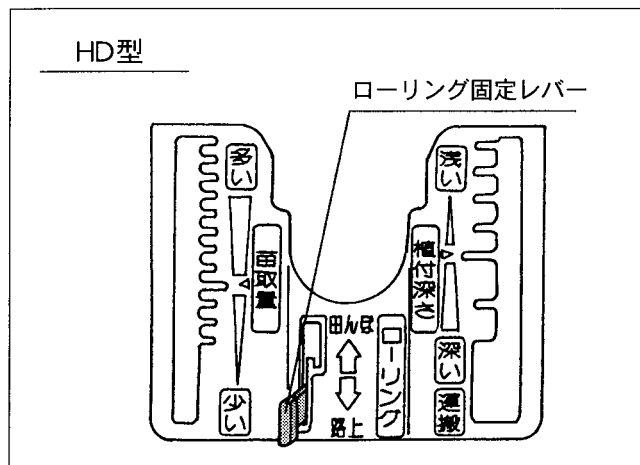
●エンジン始動時は必ず主クラッチレバーを「切」にしてください。

■植付油圧レバー（黄色）（D型）

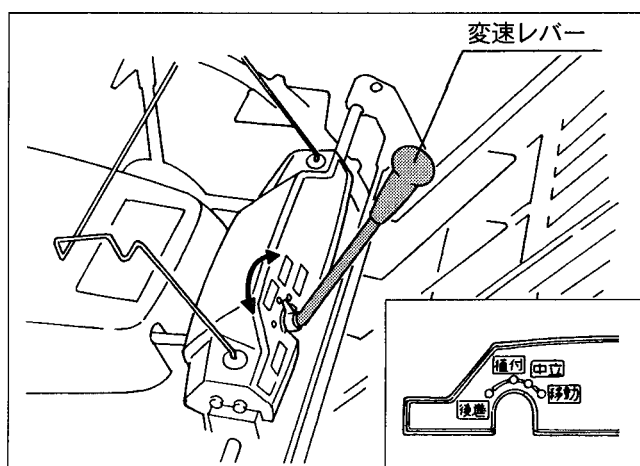
・「入」・・・・・・・植付が作動します。
・「切」・・・・・・・植付が停止します。
・「下」・・・・・・・車輪が自動的に上下します。（路上では機体が下降します。）
・「固定」・・・・・機体の下降が固定されます。
・「上」・・・・・・・機体が上昇します。

■植付指レバー（緑色）（HD型）

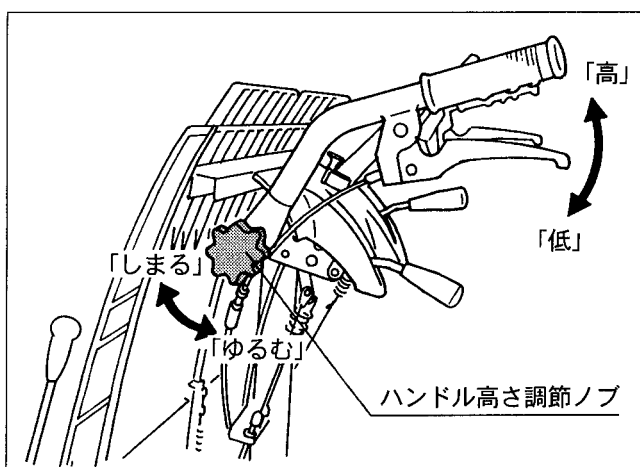
・「入」・・・・・・・植付が作動します。
・「切」・・・・・・・植付が停止します。

■油圧レバー（黄色）（HD型）

・「上」・・・・・・・機体が上昇します。
・「固定」・・・・・機体の下降が固定されます。
・「下」・・・・・・・車輪が自動的に上下します。（路上では機体が下降します。）

③

■ローリング固定レバー（HD型）

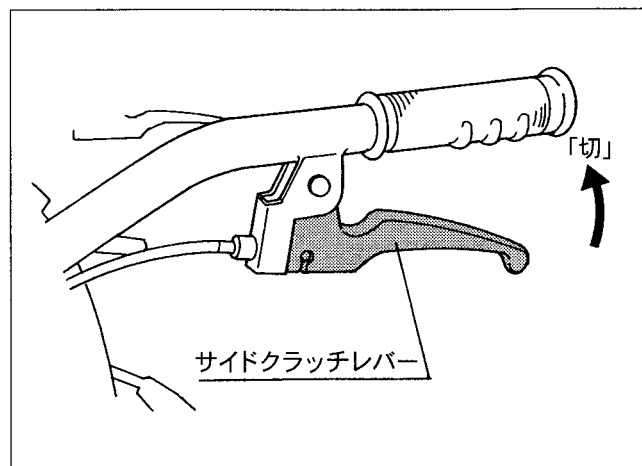
・「路上」‥‥‥機体の傾きが固定されます。
・「田んぼ」‥‥自動的に機体が水平になります。
あぜぎわでの植付や耕盤が凹凸のほ場での植付に威力を発揮します。

■変速レバー

・「後進」‥‥‥後ろに進みます。
・「植付」‥‥‥植付作業用の速度です。
・「中立」‥‥‥植付のみ運転できます。
・「移動」‥‥‥移動走行用の速度です。

■ハンドル高さ調節ノブ（HD型）

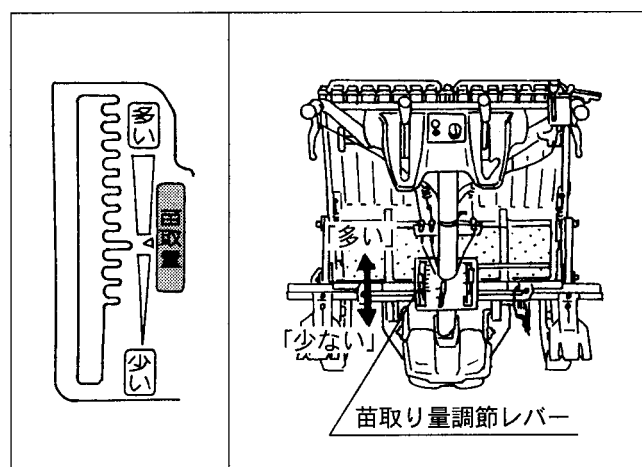
・ハンドルの高さを上下に調節するレバーです。
・左右のノブを回してねじをゆるめ使いやすい高さに調節できます。また格納時、運搬時にはハンドルを折りたたむこともでき場所をとりません。

注意

●調節し終えたらノブを確実にしめてください。これを怠るとハンドルがゆるみ大変危険です。

■サイドクラッチレバー

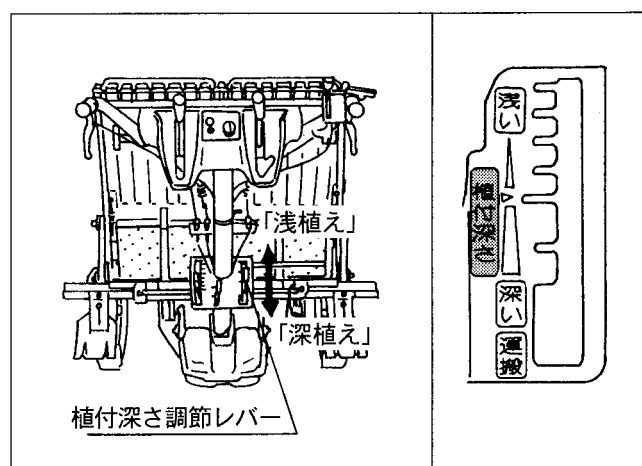
・右側を握ると右に旋回し、左側を握ると左に旋回します。
・HD型は……
サイドクラッチレバーと機体昇降（油圧）が連動しています。
どちらか一方のレバーを握ると、機体がその昇降位置で保持されます。
レバーを放すと、同時に機体（油圧）が下がります。

③

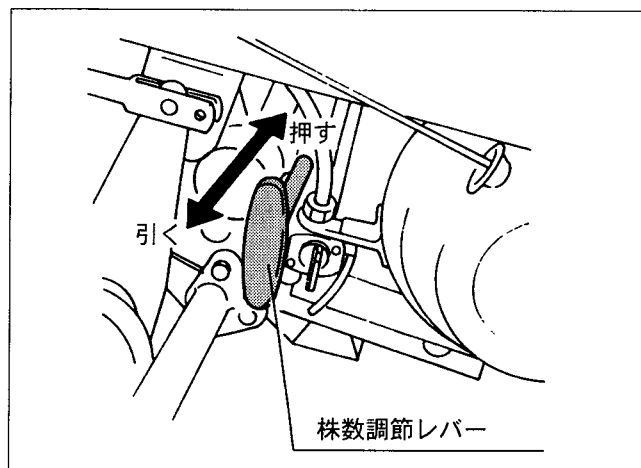
■苗取り量調節レバー

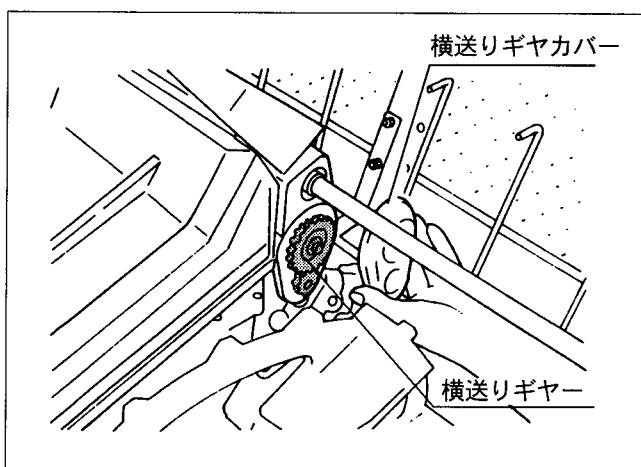
・全条の苗取り量を一度に調節するレバーです。
・レバーを上の溝にセットすると苗取り量は多くなり、下の溝にセットすると苗取り量は少なくなります。
・1溝で約1mm変わります。

■植付深さ調節レバー

・植付深さを調節するレバーです。
・レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。

重要

●運搬時は「運搬」位置にセットしてください。

■株数調節レバー

・植付株数を調節するレバーです。
・レバー押引き操作により植付株数が変わります。

■横送りギヤー

・横送り量の切替えを行うときは、横送りギヤーカバーを外し、ギヤーを交換すると植付株数が変わります。

注意

●ギヤーを交換するときは、エンジンを停止して行ってください。

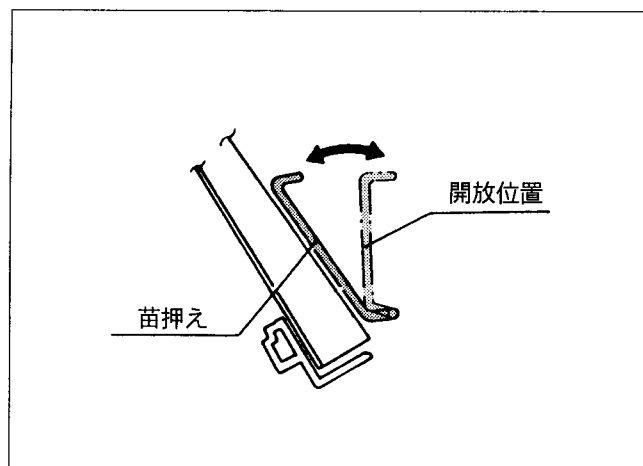
重要

●出荷時は24回取りにセットしてあります。

■苗押え

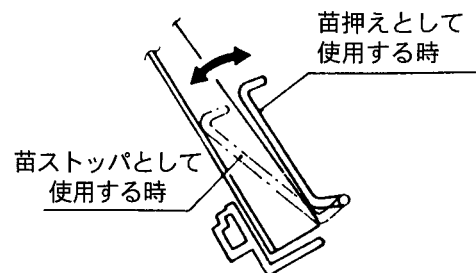
・苗の浮上りを防止します。
・苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを内側に引き苗押えを起こして、開放位置にすれば容易に苗が取り出せます。

重要

●苗取り出しが終ったら、苗押えをもとの位置にセットしてください。

■苗ストッパー

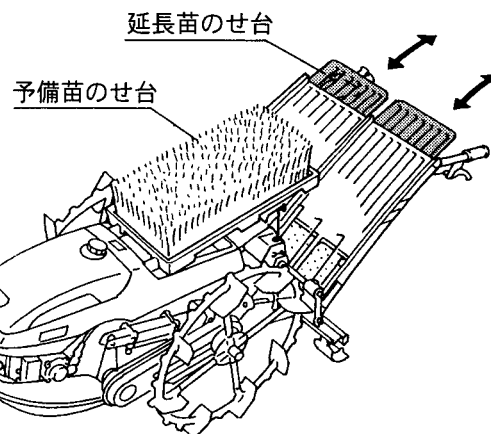
・１条毎に植付けを停止したい時に使用します。

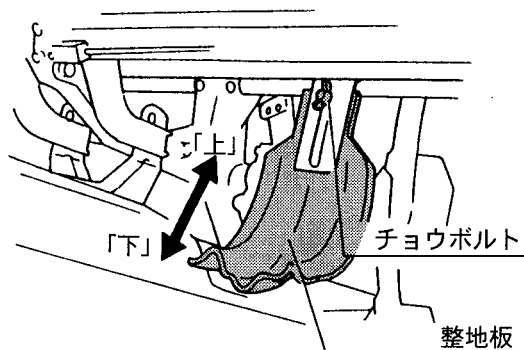
注意

●苗ストッパーの操作はエンジンを停止して行ってください。

■延長苗のせ台（HD型）

・苗のせ台より苗がはみ出すときに延長苗のせ台を伸ばして使用できます。

■予備苗のせ台

・予備の苗を１枚のせることができます。

■整地板

・車輪の跡を消します。

④ 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

警告

●給油、注油及び点検整備するときは、次のことを守ってください。
(1)田植機を平たんな広い場所に置く。
(2)エンジンを停止する。
(3)エンジンなどの過熱部分を十分冷やす。
(4)くわえタバコなど火気厳禁。
以上の安全を確認して行ってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

④

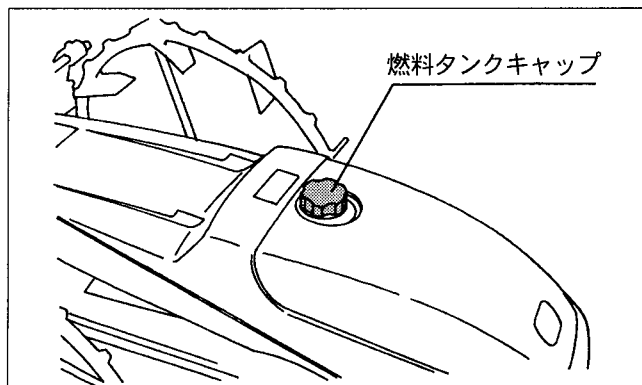
給油、注油箇所の点検と補給

■燃料（ガソリン）

（給油のしかた）

・燃料タンクキャップを外し、給油してください。

重要

＊燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジン不調や故障の原因になります。
● 燃料タンク内に1ヶ月以上放置した燃料
● 樹脂製タンクに長期間保管した燃料
● ゴミや水など異物の混ざった燃料
● 変色のひどい燃料
● くさった古い燃料
（昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。）
＊1ヶ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因となりなす。
＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

警告

(1)燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になり大変危険です。
(2)燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。燃料のつぎこぼしなどにより、火災の原因になり大変危険です。
(3)燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジンを始動するとき引火し、火災の原因になり大変危険です。

■エンジンオイル

（点検のしかた）

オイルゲージをねじ込んで先がオイルに触れるか調べます。

（「下限」以下の場合）

口もといっぱいまで補給してください。

（純正油）又は、

ガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上，SAE・10W-30
・上限～下限のオイル量 0.2ℓ

重要

●機体を水平にして、検油、給油してください。

⚠ 注意

●エンジンオイルの点検・補給は、必ずエンジンを停止し十分冷えてから行ってください。
これを怠ると、やけどをする恐れがあり大変危険です。

■ミッションオイル

（点検のしかた）

検油ボルトをはずして、検油口よりオイルが流れ出ること。

（油量が少ない場合）

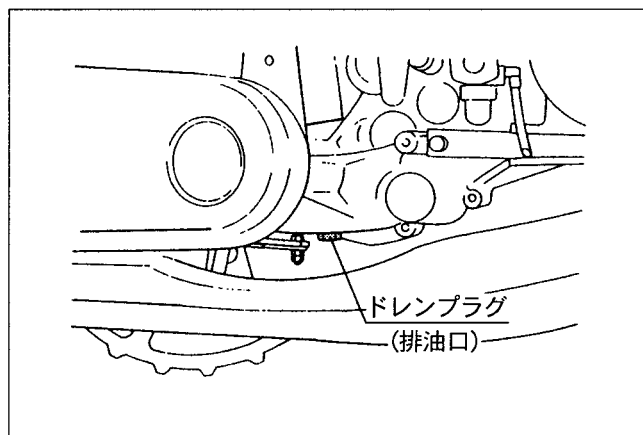
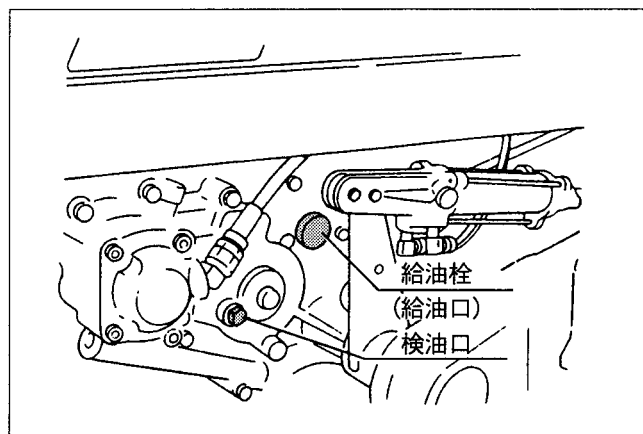
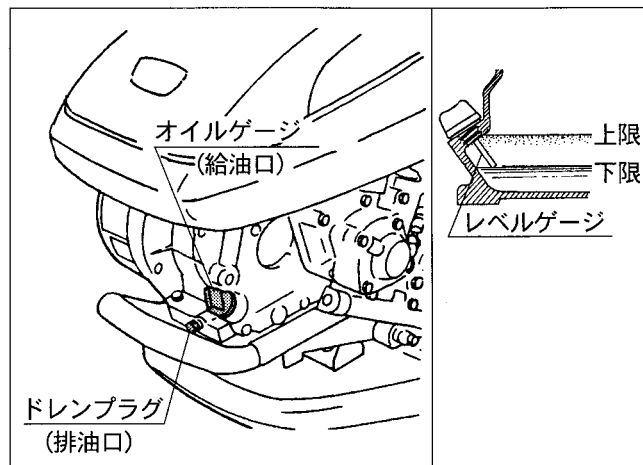
検油口からオイルが流れ出すまで給油口から補給してください。

（純正油）または

API・GL-4級以上
SAE・80W

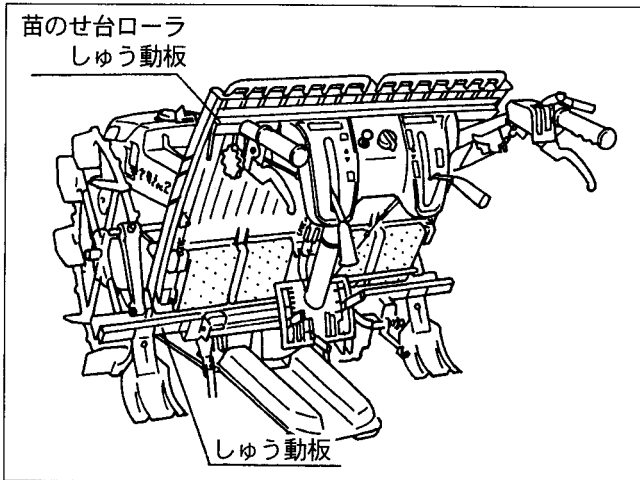
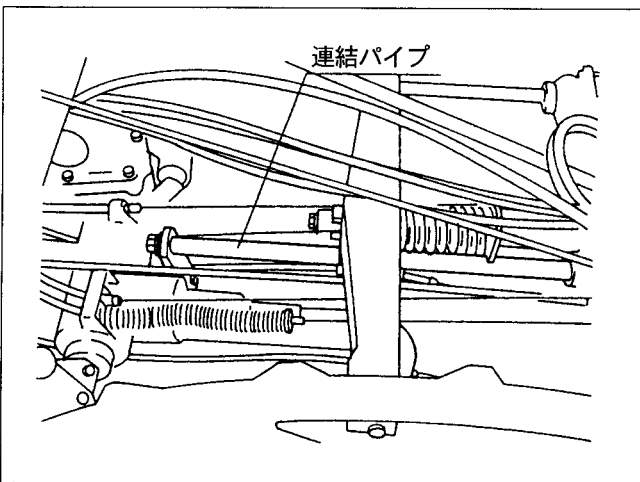
重要

●機体を水平にして、検油、給油してください。

④

■グリースの塗布箇所

●しゅう動板スライド部

●苗のせ台ローラしゅう動板スライド部

④

●連結パイプ部

■オイル注油箇所

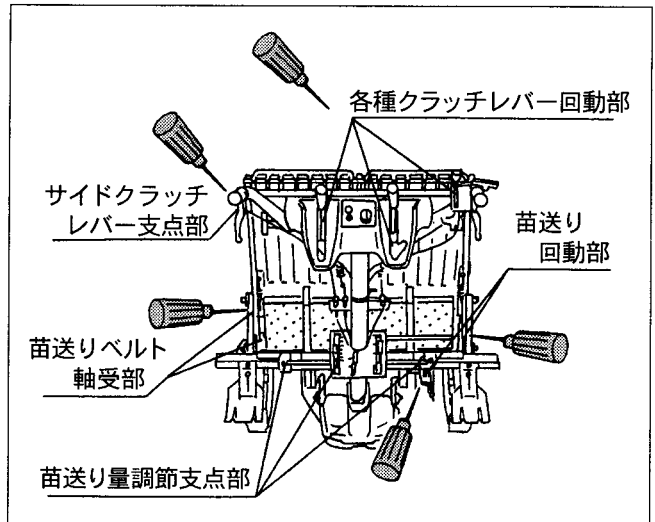
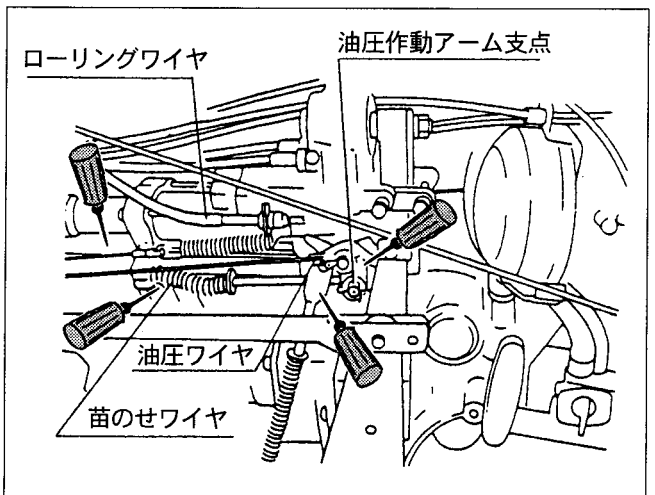
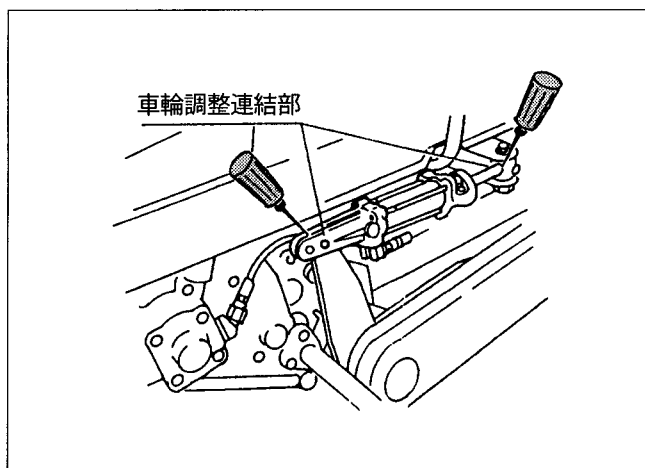
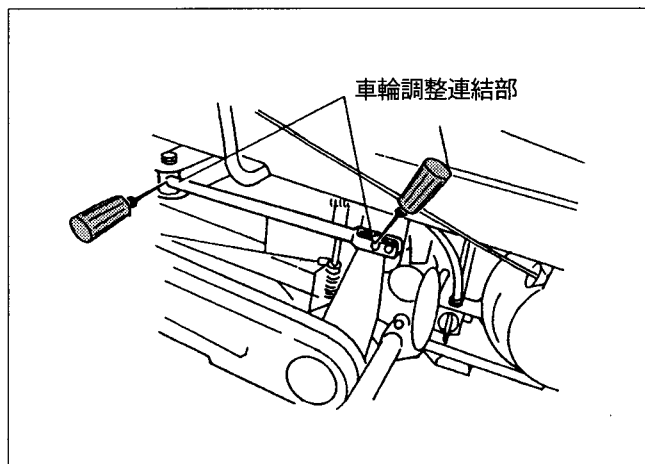
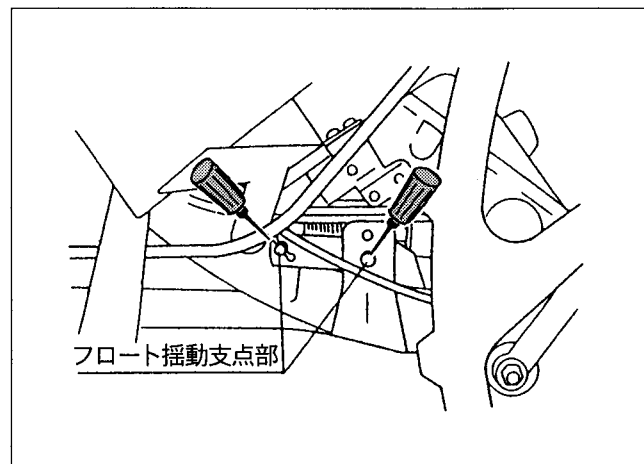
●クラッチレバー回動部

●サイドクラッチレバー支点部

●苗送り回動部

●苗送りベルト軸受部

●苗送り量調節支点部

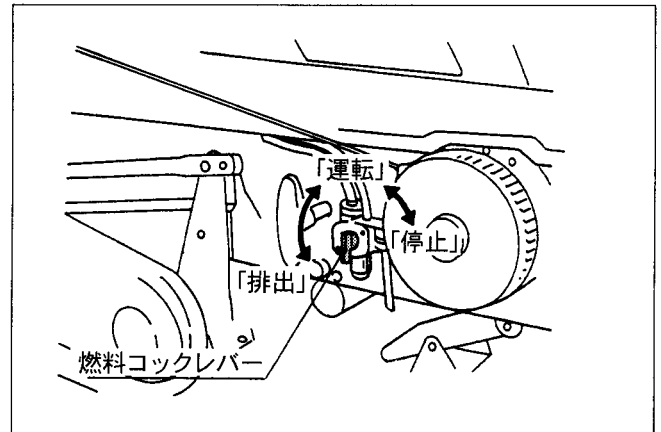
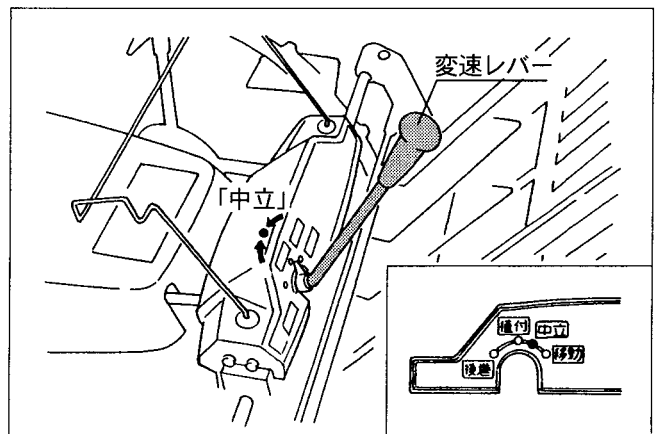
●各種ワイヤー

●油圧作動部

●車輪調整連結部

●フロート揺動支点部

⑤ 運転のしかた

警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあるか確認してください。
(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3) エンジンを始動するときは、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

(1) 燃料コックを「運転」位置にします。

(2) 変速レバーを「中立」位置にします。

(3) 主クラッチレバーを「切」にします。
HD型は、植付指レバーも「切」にします。

重要

●主クラッチレバー「入」ではエンジンは始動しません。

(4) 植付油圧レバー (HD型は油圧レバー) を「固定」にします。
(5) エンジンスイッチを始動にします。
(6) チョークノブを操作します。
・エンジンが冷えているとき
→チョークノブを引く
(7) アクセルレバーを「高」「低」の中間にします。
(8) リコイルスタータノブを勢いよく引っ張ると、エンジンが始動します。

注意

●リコイルスタータノブを引っ張る前に、手が人や物に当たらないかよく確かめてください。

(9) 始動したら、エンジンの回転調子をみながら、チョークノブを徐々にもどします。
(チョークノブを押し込む)

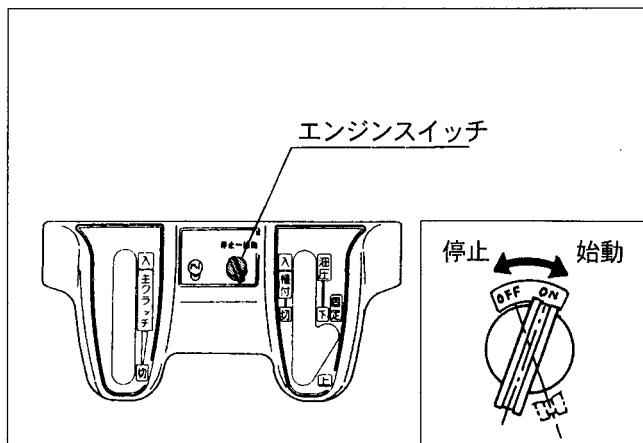
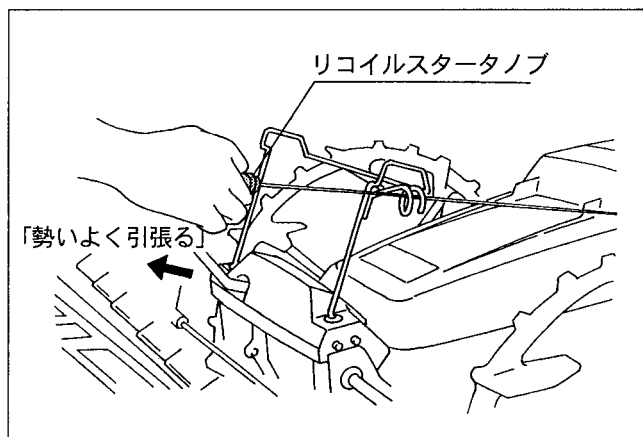
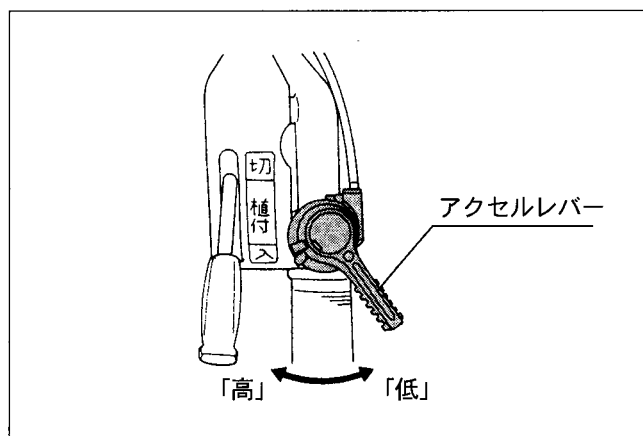
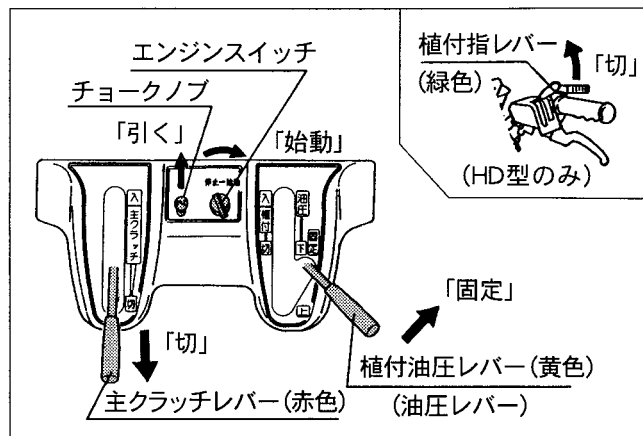
重要

● 3 回以上引っ張っても始動しないときは、そのままチョークを引き続けると燃料の吸い込み過ぎとなりますので、チョークノブを元へ戻し、アクセルレバーを多少「高」側にして始動してください。

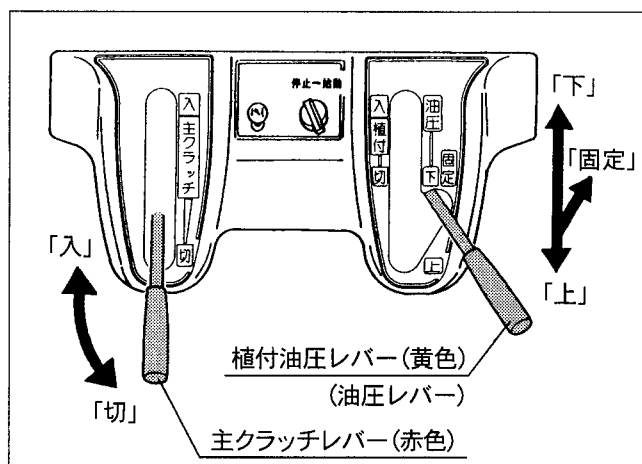
■エンジンの停止

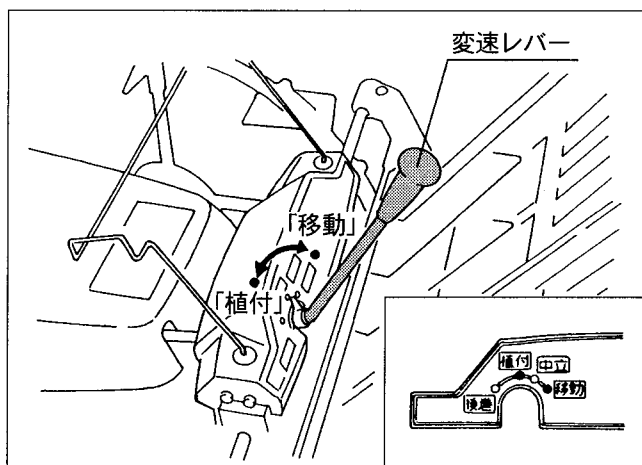
(1) アクセルレバーを「低」にしてエンジン回転を下げます。
(2) エンジンスイッチを「停止」の位置にするとエンジンは停止します。

重要

●エンジンを高速回転のまま停止しないでください。

発進、停止のしかた

■発進のしかた

(1) 主クラッチレバーを「切」にしてください。
(2) 変速レバーを「植付」又は「移動」位置にしてください。
(3) 植付油圧レバー（HD型は油圧レバー）を「上」位置にし機体が上がったところで「固定」位置にします。
(4) アクセルレバーを「低」にしてください。
(5) 主クラッチレバーをゆっくり「入」にして発進してください。

 注意

(1) アクセルレバーを「高」にしたり、主クラッチレバーを急に「入」にすると急発進して危険です。
(2) 凹凸のはげしいあぜ道を走行する場合は、ローリング固定レバーを「路上」位置にして、ゆっくり走行してください。

■停止のしかた

(1) アクセルレバーを「低」にしエンジン回転を下げます。
(2) 主クラッチレバーを「切」にしてください。
(3) 植付油圧レバー（HD型は油圧レバー）を「下」位置にし機体を下げてください。

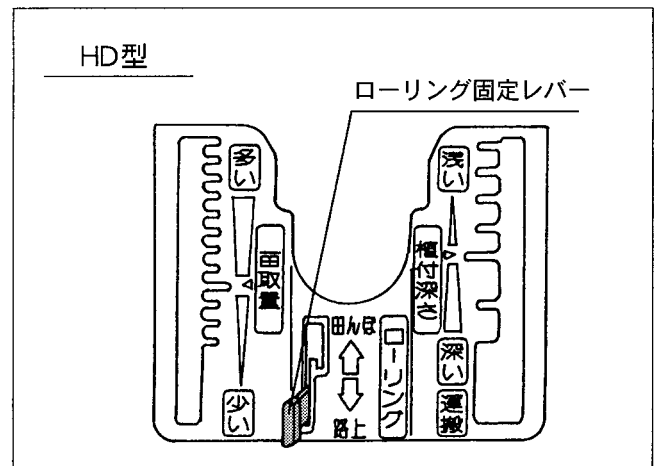
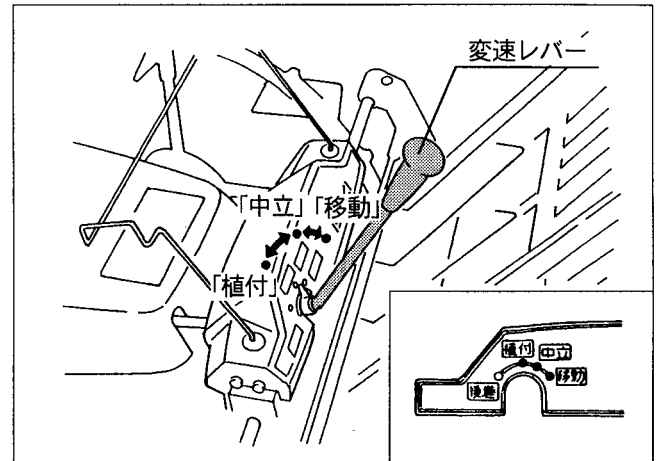
移動、運搬のしかた

■走行のしかた

(1) 変速レバーを「中立」にし、主クラッチレバー「入」、植付油圧レバー「入」(HD型…植付指レバー「入」)にして、苗のせ台を機体の中央にしてください。
(2) 主クラッチレバーを「切」にしてください。
(3) 植付油圧レバー (HD型は油圧レバー) を「上」位置にし機体が上がったところで「固定」位置にします。
(4) 変速レバーを「植付」又は「移動」位置にしてください。
(5) アクセルレバーを「低」にしてください。
(6) 主クラッチレバーをゆっくり「入」にして発進してください。

 注意

(1) アクセルレバーを「高」にしたり、主クラッチレバーを急に「入」にすると急発進して危険です。
(2) 凹凸のはげしいあぜ道を走行する場合は、ローリング固定レバーを「路上」位置にして、ゆっくり走行してください。

⑤

■トラックへの積み・降ろしのしかた

(1) 変速レバーを「中立」にし、主クラッチレバー「入」、植付油圧レバー「入」(HD型…植付指レバー「入」)にして、苗のせ台を機体の中央にしてください。

(2) 植付深さ調節レバーを「運搬」位置にしてください。

(3) ローリング固定レバーを「路上」にしてください。

(4) 機体をいっぱいに上げ、植付油圧レバー(HD型は油圧レバー)を「固定」位置にしてください。

(5) トラックに載せる時は、アクセルレバーを「低」にし、変速レバーを「植付」位置で行ってください。
又、トラックより降ろす時は、変速レバーを「後進」で行ってください。

 警告

(1) アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、又ずれないように確実にかけてください。

(2) 周囲に危険のない平たんで、地面のかたい場所を選んでください。

(3) 積み込むトラックのエンジンを停止し、変速は「1速」又は「R」の位置に入れて、駐車ブレーキを引いてください。

(4) 積み降ろしの途中では絶対に主クラッチレバーやサイドクラッチレバーを切らないでください。クラッチを切ると、田植機が下へ走り出し、非常に危険です。

〈アユミ板の条件〉

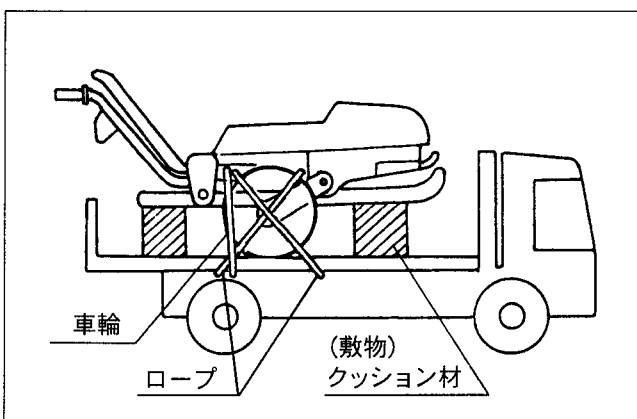
●長さ……… 車の荷台高さの4.8倍以上
●幅………… 30cm以上
●数量……… 2枚
●強度……… 1枚の強度が200kg以上
●すべり止めのあるもの

■運搬中の固定方法

(1) フロートの下に敷物を置いて、機体を降ろしてください。

(2) 車輪をロープでたすき掛けにし固定してください。

(3) フレームにロープを掛け軽く押さえてください。

(4) 変速レバーを「植付」か「後進」位置にしてください。

ほ場への出入りのしかた

警告

(1) ほ場と高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。
(2) 苗乗せ台には、苗を乗せないでください。又田植機に荷物を積まないでください。

■ほ場への入りかた

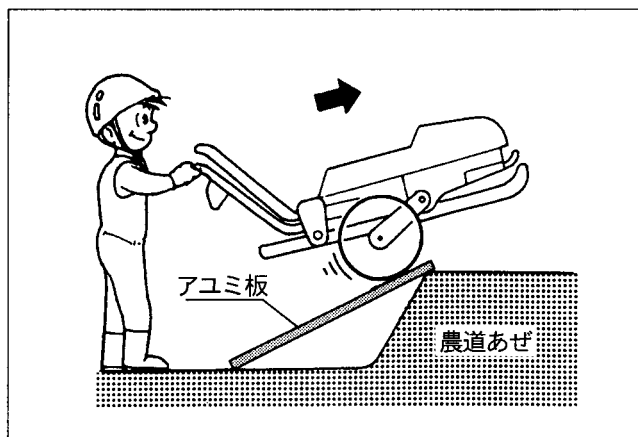
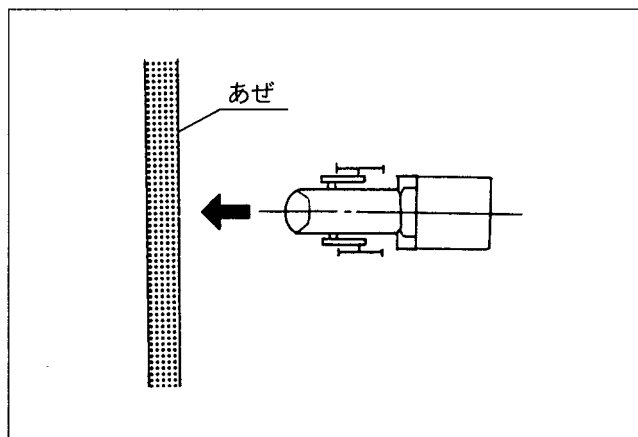
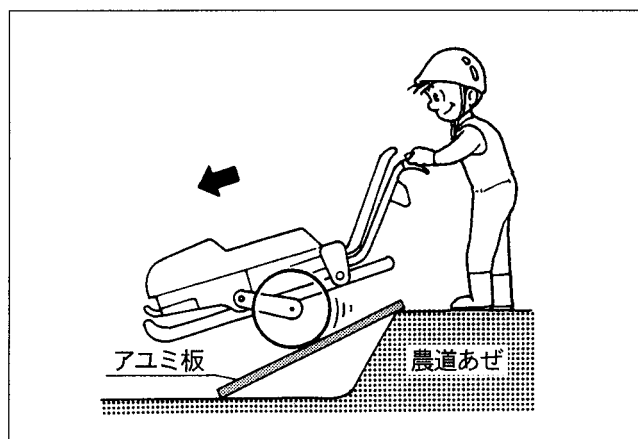
(1) 植付部をいっぱい上げてください。
(2) 変速レバーを「植付」で速度を調整して前進でゆっくりとほ場に入ってください。

注意

●ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角に進んでください。

■ほ場からの出かた

(1) 植付部をいっぱい上げてください。
(2) 変速レバーを「植付」で速度を調整して前進でゆっくりとほ場から出てください。

⑤

⑥ 作業前の準備

ほ場と苗の準備

■ほ場の準備

●代かき

代かきは、ほ場の表面の凹凸をなくすように、ていねいにしてください。

重要

●代かき日は、土質などによっても異なりますので、当地に合った代かき日をきめてください。
●ほ場の硬さは、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

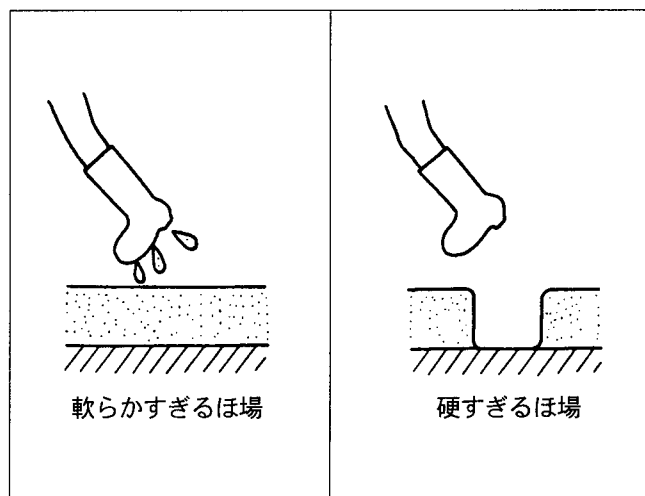
●水深

水深は１～２cm程度の全面浅水が最適です。

重要

●水深が２cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

●きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。

植付作業前の準備

■植付株数（株間）の決め方

●マット苗

植付株数は株数調節レバーの切替えで変更できます。
当地に合った植付株数にセットしてください。

植付株数(3.3㎡当り)		60	70	80
株　間（cm）		18	16	14
10a当たり所要苗箱数	稚 苗	14	16	18
	中 苗	24	27	30
株数調節レバー位置		押	中	引

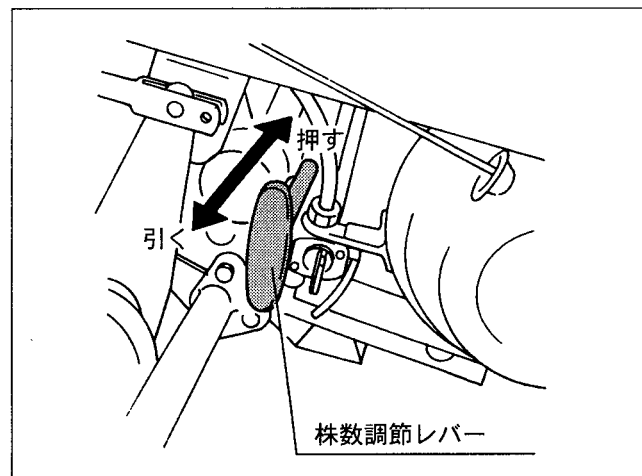
重要

●出荷時の植付株数は、80株に合わせてあります。

●植付株数により使用箱数が変わります。植付株数にあった箱数を準備してください。なお、実際には10ａ当り２箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。

●植付株数や苗取り量を途中で変更すると所要箱数が変わります。

■株数調節レバーの切り替えかた

(1) エンジンを低速回転にし、変速レバーを「中立」位置にします。
(2) 主クラッチレバー「入」、植付油圧レバー「入」（HD型…植付指レバー「入」）にし、植付アームを回します。
(3) 株数調節レバーを押し引きし、希望の位置にセットします。

調節レバー操作	押	中	引
株　数 (3.3㎡当り)	60	70	80
株　間 (cm)	18	16	14
株数調節レバーポジション	溝なし	溝1	溝2

重要

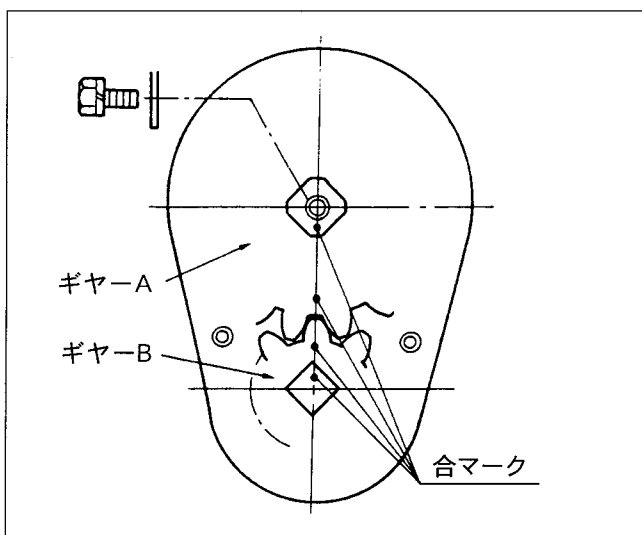
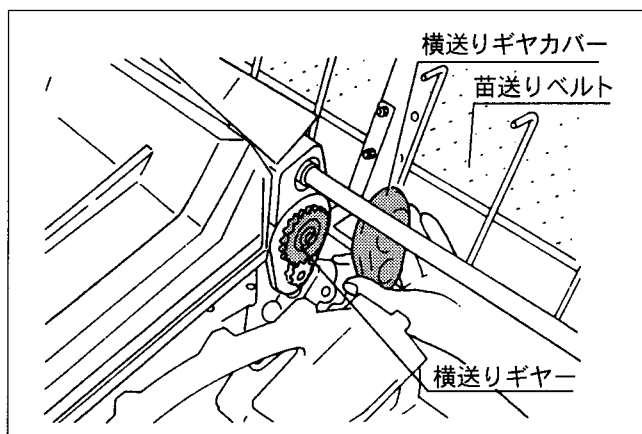
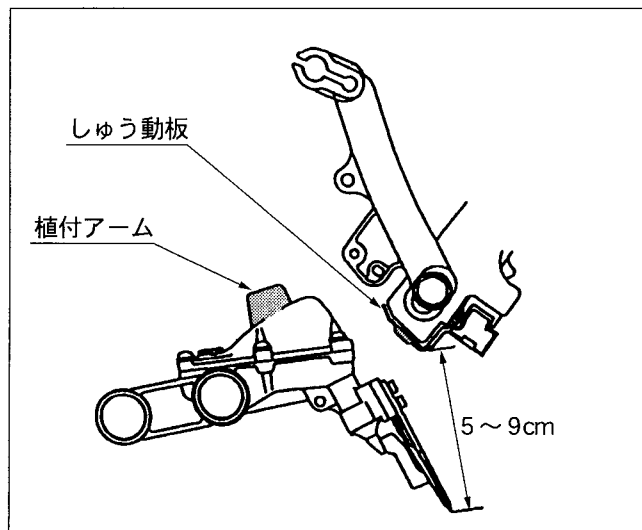
●レバーの調節後、植付アームが回っていることを確認してください。

⑦ 作業前に必要な調節

■横送り量の調整のしかた

横送り回数は、下記要領にて調節してください。

(1) 変速レバーを「中立」位置にし、苗のせ台を移動させ端から１株手前で植付油圧レバーを「切」(HD型…植付指レバーを「切」)にします。
(2) エンジンスイッチを「停止」にし、主クラッチレバー「入」植付油圧レバーを「入」(HD型…植付指レバー「入」)にします。
(3) 苗送りベルトが回りはじめる位置（苗のせ台を端に寄せ植付アームが右図の位置）まで、リコイルスタータノブをゆっくり引きます。
(4) 横送りギヤカバーをはずし、植付アームを逆転させ、ギヤー、シャフトの合マークが右下図になる位置にてギヤーを組替えてください。
(5) ギヤー組み替え後は、ボルトを確実に締付けて、カバーを取り付けてください。
(6) 組付け後、植付アームが右図のように５～9cmの範囲で苗送りベルトが回りはじめることを確認してください。

重要

●出荷時は24回取りにセットしてあります。

ギヤー組み合わせ表			
	ギヤーA	ギヤーB	備　考
稚苗 (24回取り)	20枚ギヤー	10枚ギヤー	出荷時組込
中苗 (20回取り)	20枚ギヤー	12枚ギヤー	20枚ギヤー 12枚ギヤー 注文部品

■車輪深さの調整のしかた

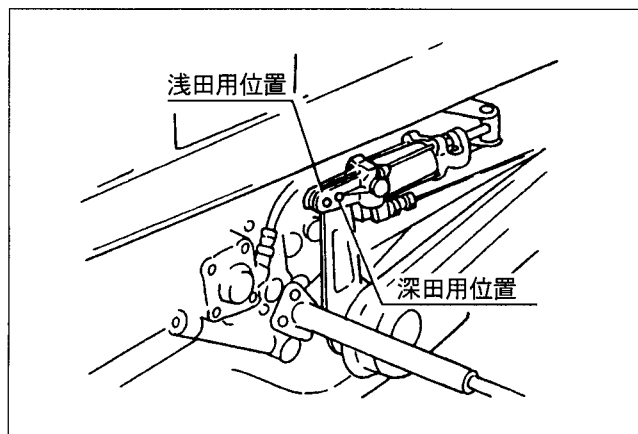
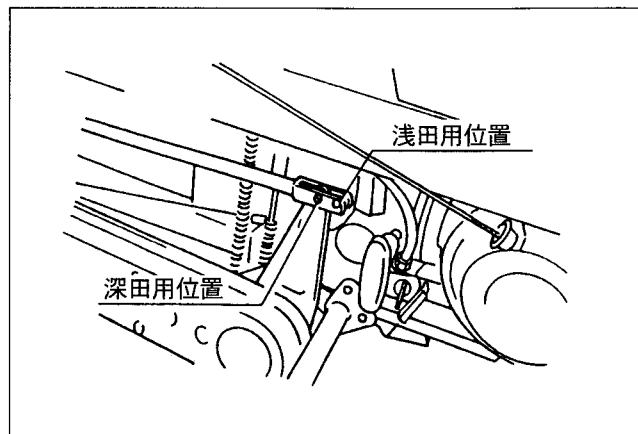
ほ場の深さに応じて車輪調整連結部の穴位置を選択し、ほ場に適した車輪深さにしてください。

浅田用位置……… 耕深5～25cmに適用。

深田用位置……… 特に深いほ場

重要

●**出荷時は深田用位置でセットしています。特に浅いほ場の場合は穴位置を変えてください。**

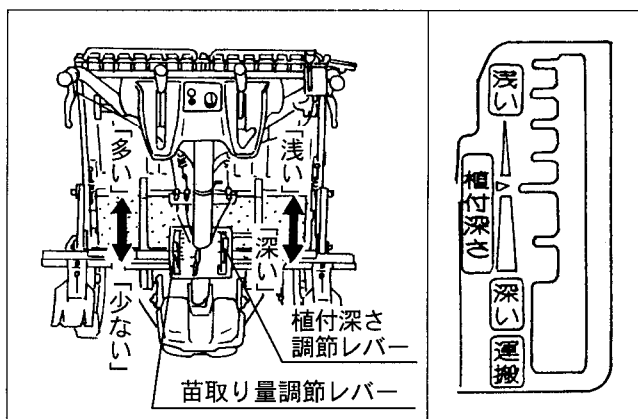
●**穴位置を変えるときは、左右同じ位置にセットしてください。**

■植付深さの調節のしかた

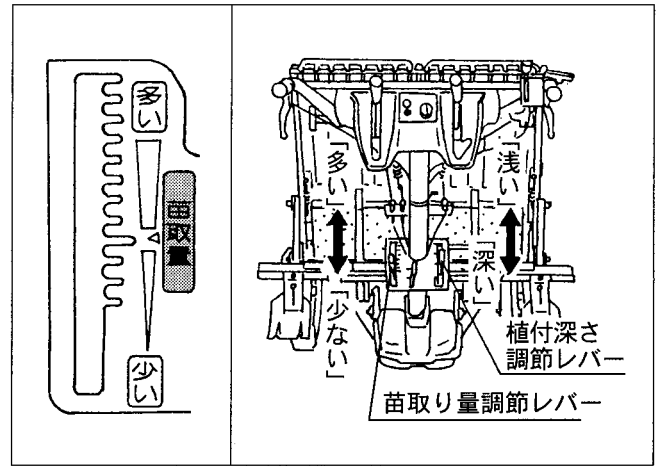
・植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは6段階に選べます。

・植付深さの標準は、▶マーク位置です。

重要

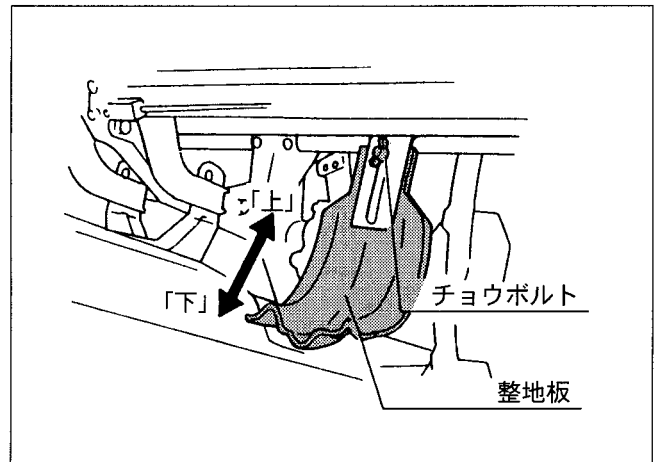
●**マット苗の植付深さは2～3cmが適正です。**

●**植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。**

■苗取り量の調節のしかた

・苗取り量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取り量を一度に変えることができます。
・苗取り量は、12段階に選べます。
・ガイド溝１段で苗取り量は約１mm変わります。

■整地板の調整のしかた

●ほ場の状態に応じて、チョウボルトをゆるめて上下に調整してください。

不調な場合の現象	整地板の位置
整地しない	整地板を下げる
泥を押す	整地板を上げる

⑦

⑧ 作業のしかた

植付作業の手順

(1) ローリング固定レバーを「田んぼ」にします。
(2) ほ場に入り、変速レバーを「中立」にします。
(3) 植付油圧レバーを「入」(HD型…植付指レバーを「入」)、主クラッチレバーを「入」にし、苗のせ台を左又は右端に寄せて、植付油圧レバーを「切」(HD型…植付指レバーを「切」)にし、主クラッチレバーを「切」にします。
(4) 苗を苗のせ台、予備苗のせ台にのせます。

重要

- **苗が、しゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。**
- **苗のせ台を左又は右端に寄せてください。**

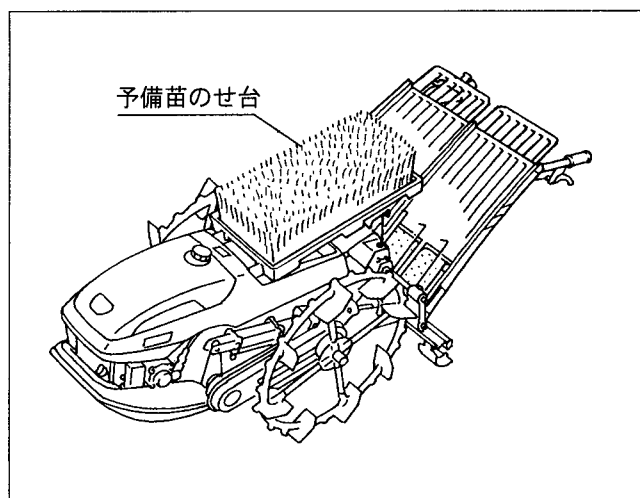
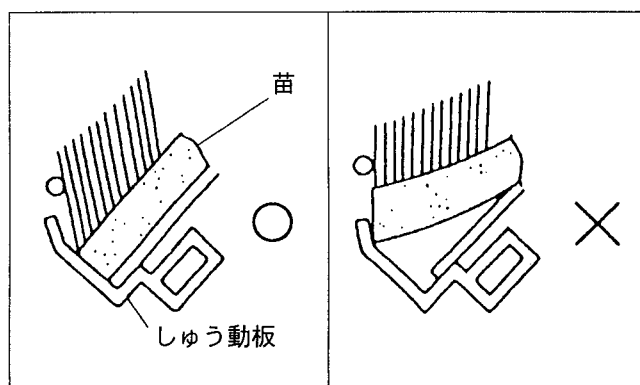
(5) 予備苗のせ台に苗取り板ですくった苗を乗せてください。

重要

- **根張りの悪い苗は、育苗箱に入ったままの状態で予備苗のせ台に乗せてください。**

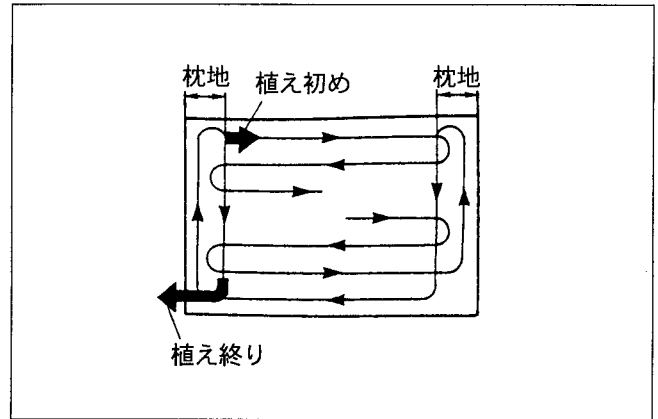
(6) 変速レバーを「植付」位置にします。
(7) 植付油圧レバーを「入」(HD型…植付指レバーを「入」、油圧レバー「下」)位置にします。
(8) エンジン回転数を中速にして、主クラッチレバーを「入」にして植付けをはじめてください。

重要

- **植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行ってください。**
- **ほ場の状態、苗の状態により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。**

■枕地のとりかた

●枕地は、あらかじめ１往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

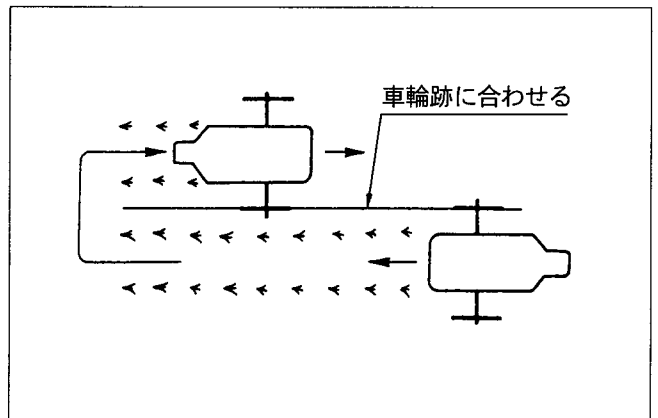
重要

●ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付ができます。

■旋回のしかた

●スライディングターンのしかた

フロートを表土につけたまま旋回する方法です。

(1) 手元を軽く持上げ、フロート前部を表土にすべらせながら旋回します。

(2) 植えてきた車輪跡（整地板跡）に車輪を合わせ植付けてください。

重要

●水が深すぎると車輪跡が見えにくくなりますので１～２cmのヒタヒタ水程度にしてください。

⑧

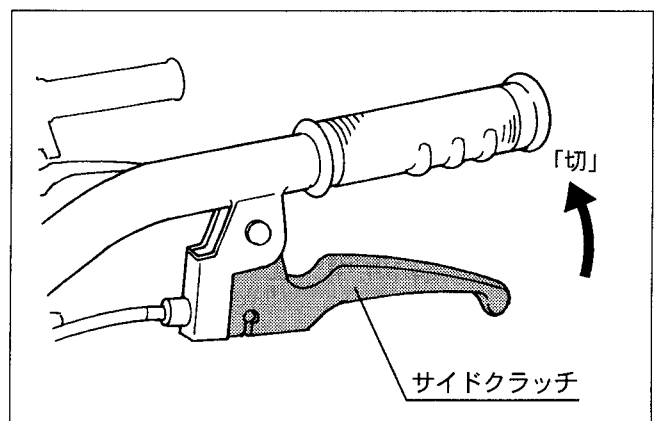
●ジョイターンのしかた（HD型）

サイドクラッチレバーリフトを使って旋回することができます。

(1) 旋回する側のサイドクラッチレバーを握ります。

(2) 手元を軽く持ち上げフロート前部を表土につけ機体の昇降を適切な希望の高さにし機体を水平に戻すと機体（油圧）がその昇降位置で保持されます。

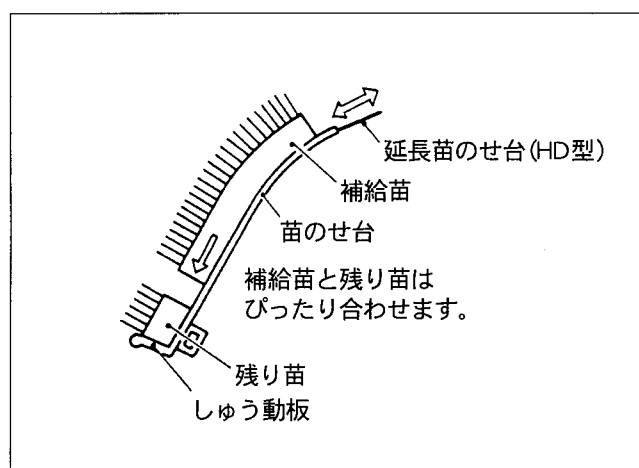
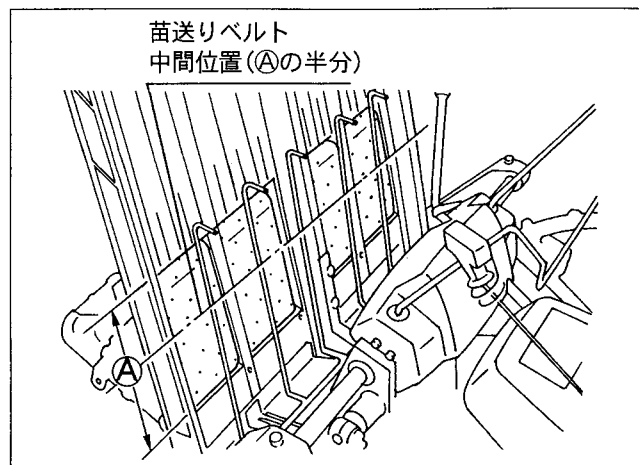
(3) 条合わせした所でサイドクラッチレバーを放すと、同時に機体（油圧）も下ります。

●旋回時フロートで泥を押さず枕地を荒さずきれいに仕上ります。

■苗の補給のしかた

苗のせ台の苗の残りが、苗送りベルト中間位置にくるまでに苗を補給してください。
ほ場の長さを考えて、旋回のときに補給するようにしましょう。

重要

- **残り苗と補給苗の境い目がぴったり合うように心がけてください。**
- **延長苗のせ台を使用すると効率的に苗補給が行えます。（HD型）**

⑧

■植えじまいのしかた

植付けの最終行程(あぜぎわでの植付け)を使用機械の条数に合わせるためには、前行程で植付け条数の調整をする必要があります。任意の条数を植えたいときは、苗ストッパを使って行ってください。

●苗ストッパの使いかた

(1)苗を上方にずらします。
(2)苗押えを内側に引き、フックを固定穴より外します。
(3)苗押えを苗のせ台側に倒します。

●後進のしかた

フロート底面を表土から5～10cm上げた状態で植付油圧レバー(HD型は油圧レバー)を「固定」位置にし、ハンドルを下げ気味で下方に押えながら後進します。

重要

●フロート先端が表土に当たると、機体が上昇しハンドルが持ち上がり、バックしにくくなります。ハンドルを充分下方に押しつけて後進してください。

⑧

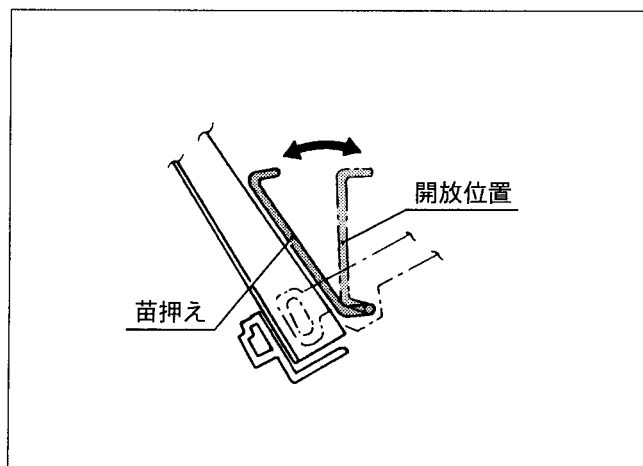
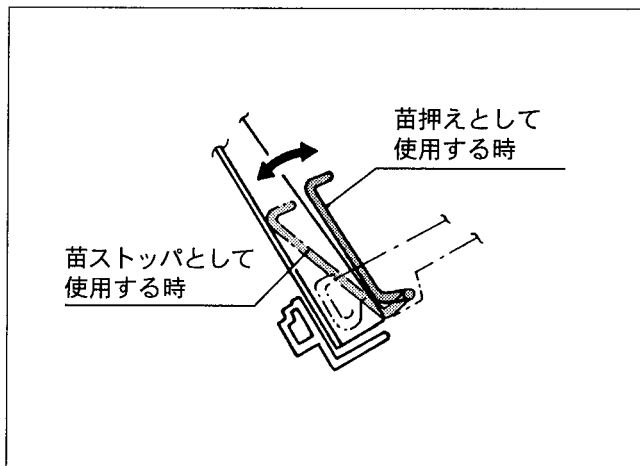
■残り苗の取り出し

●植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを内側に引き抜き、ガイド穴からはずし、上側に回してください。

重要

●苗の取り出しが終ったら、苗押えは、必ず作業位置(ガイド穴)に戻してください。

警告

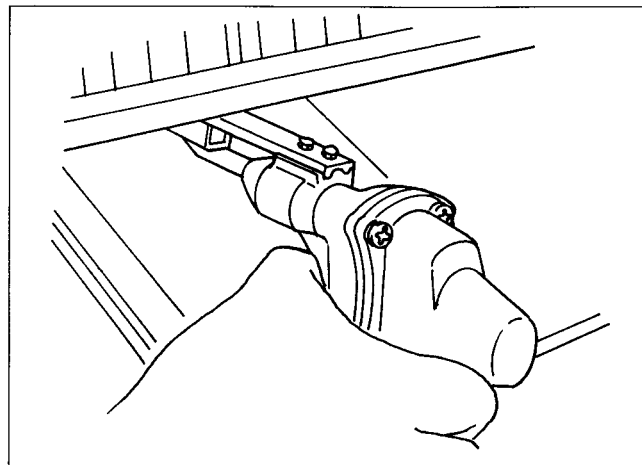
●苗押えを上げたままで植付レバーを「入」にしないでください。苗押えを上げたまま植付レバーを「入」にすると変速レバーに引掛ることがあり大変危険です。

■安全クラッチが作動したとき

●植付作業中、植付アームが止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いていますので次の処置をしてください。

(1) ただちに主クラッチレバーを「切」にしてください。

(2) 植付油圧レバーを「切」(HD型…植付指レバーを「切」)にし、エンジンを停止します。

(3) 苗取口と植付爪の間、植付アームとフロートの間などに石等をかんでいないか確認し、取除いてください。

(4) 植付アームが軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付けを再開してください。

重要

●植付爪が曲がったり、破損した時は、お買い上げいただいた先にご連絡ください。

⚠注意

●安全クラッチの確認時には、必ずエンジンを停止して行ってください。これを怠ると大変危険です。

手で軽く回るか確認してください。

⑧

⑨ 点検整備

定期的な点検整備

警告

(1)給油、排油、点検整備は必ずエンジンを停止して行ってください。
(2)機械は平たんな場所におき、安全を確認してください。
(3)作業中は火気厳禁。

■点検、給油、調整一覧表

○：点検　△：給油　×：交換

点検・給油・調整項目		点検時間				備考	参照ページ
		毎日	50時間	100時間	不調時のみ		
エンジン部	エンジンオイル	○	×	×		(純正油)又は、ガソリンエンジンオイル API・SE級以上、SAE・10W-30 初期のみ20時間で交換　0.45 ℓ	37
	エアークリーナエレメント清掃		○	○			37
	燃料フィルター清掃		○	○			38
	点火プラグの清掃					毎シーズン始め	38
走行部	ミッションオイル（油圧オイル兼用）		×	×		(純正油)又は、API・GL4-級以上、SAE-80W 初期のみ10時間で交換　1.7 ℓ	39
植付部	植付部フレーム	分解時に補給				グリース（ＪＩＳ）	－
	植付アーム			○		クボタスペアグリース	－
	植付爪				×	摩耗、変形時 シーズン始め点検	39
その他	注油指定箇所	○				注油	18
	各ワイヤの点検調整					毎シーズン始め点検	41

■エンジンオイルの交換

(1)エンジンを暖機運転後ドレンプラグを外してオイルをぬいてください。

(2)ドレンプラグを締付後、給油口から口もといっぱいまで給油し給油栓を確実に締めてください。

(純正油)又は、ガソリンエンジンオイル API・SE級以上、SAE・10W-30 0.45ℓ)

重要

●**機体を水平にして、検油・給油してください。**

注意

(1)オイル交換時は、エンジンを停止して行ってください。

(2)作業中は火気厳禁。

(3)オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げいただいた先にご相談ください。

■エアークリーナエレメント洗浄

●エアークリーナカバーを外し中のスポンジを取り出し、灯油又は軽油で洗った後、エンジンオイルに浸しかたく絞って取り付けてください。

注意

●洗浄時は、エンジンを停止して行ってください。

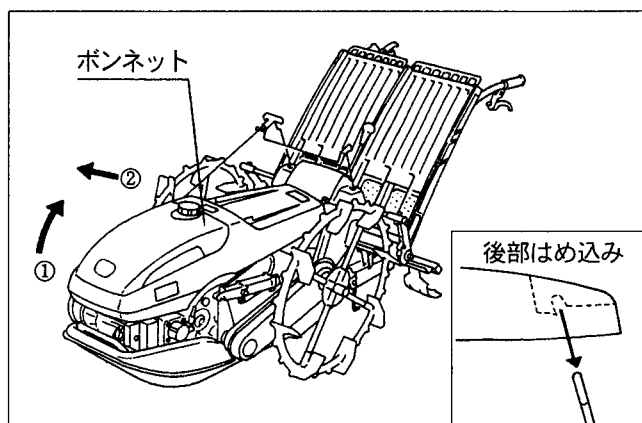
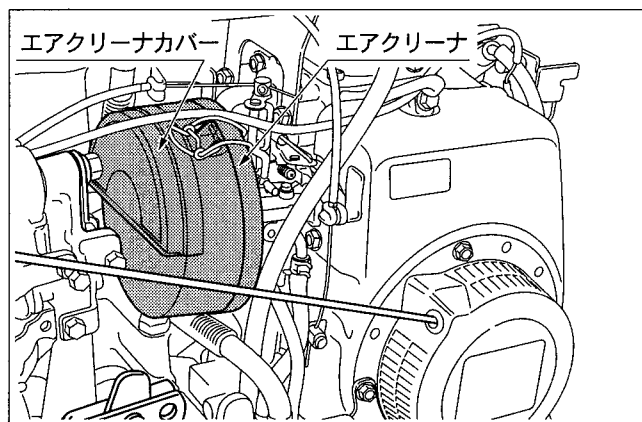
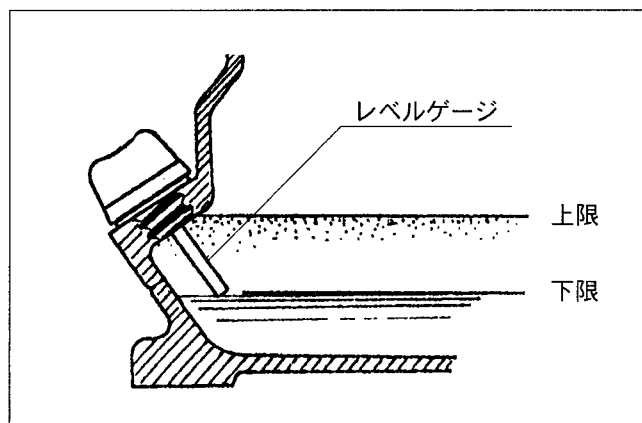
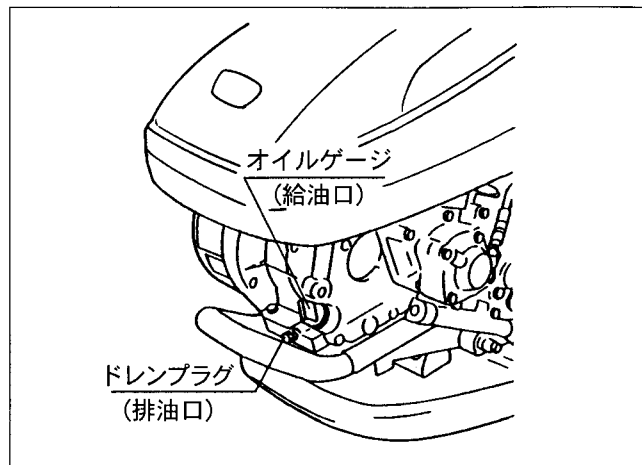
■ボンネットの外しかた

●ボンネット前部を持ち上げフックを外し、さらに上げて前方にゆっくりと引き、外してください。取付けるときは、後部のはめ込みをあわせてからゆっくり前部を押込んでください。

注意

(1)ボンネットを取外す時は、必ずエンジンを停止して行ってください。

(2)点検整備が終わったら、必ずボンネットを取り付けてください。

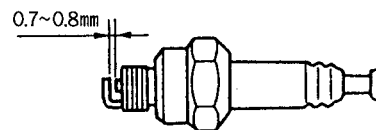
⑨

■点火プラグの清掃

(1) 付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。
(2) 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8㎜に調整してください。

重要

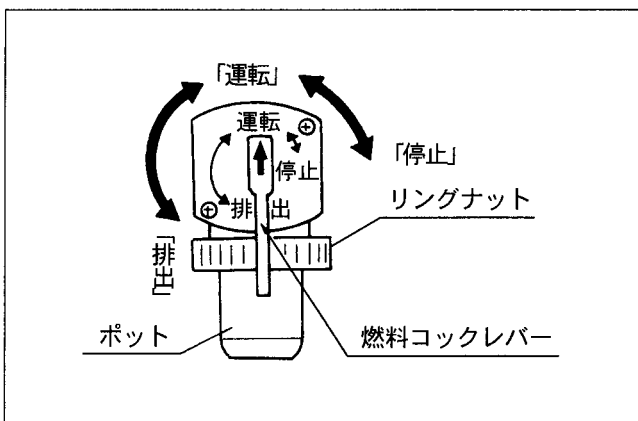
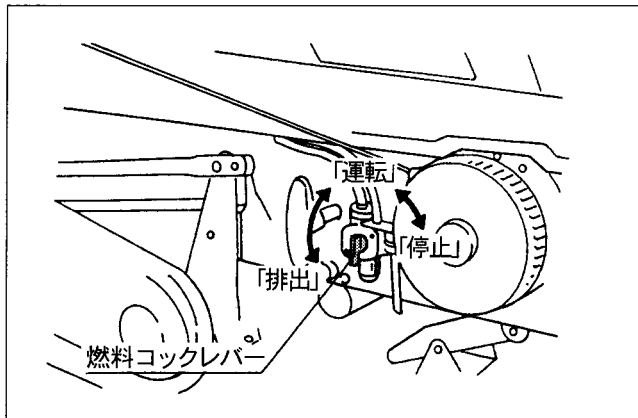
●使用点火プラグ
NGK　BP-2HS

注意

●点火プラグの点検を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

■燃料フィルターの清掃

(1) 燃料コックレバーを「停止」位置にしてください。
(2) リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油・ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。

注意

(1) 清掃時は、エンジンを停止して行ってください。
(2) 作業中は火気厳禁。

■ミッションオイルの交換

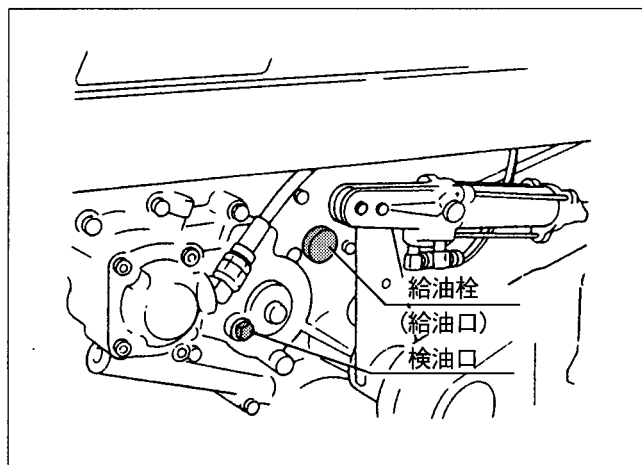
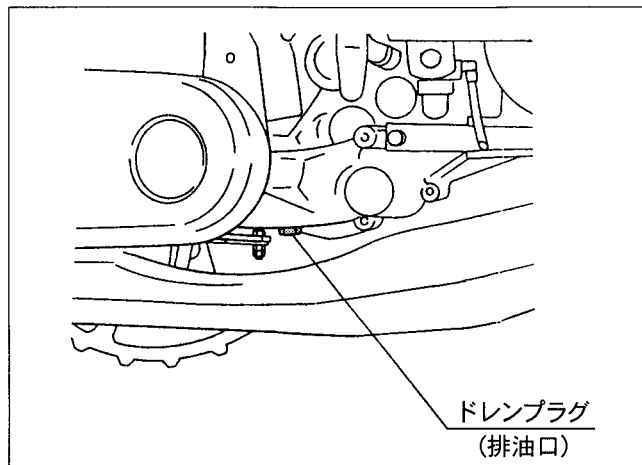
(1) 暖機運転してからドレンプラグを外してオイルをぬいてください。
(2) オイルぬき終えたらドレンプラグを締付、検油ボルトをはずして、検油口からオイルが出るまで給油口から給油してください。給油後は、検油ボルトを締め給油栓を閉めてください。

（(純正油) または、API・GL-4級以上、SAE・80W　1.7ℓ）

重要

●機体を水平にして、検油・給油してください。

 注意

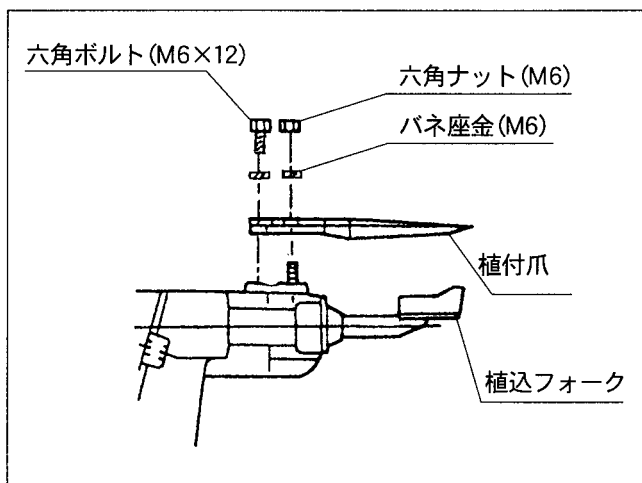
(1) オイル交換時は、エンジンを停止して行ってください。
(2) 作業中は火気厳禁。
(3) オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げいただいた先にご相談ください。

■植付爪の点検交換

植付爪が摩耗又は変形すると植付姿勢が悪くなります。この様な時は植付爪を交換してください。

(1) 六角ボルトと六角ナットを外し、植付爪を外す。
(2) 新しい植付爪を取り付けてください。

 注意

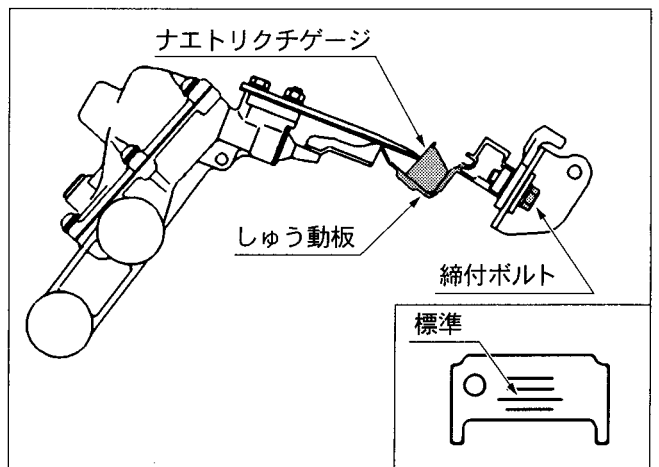
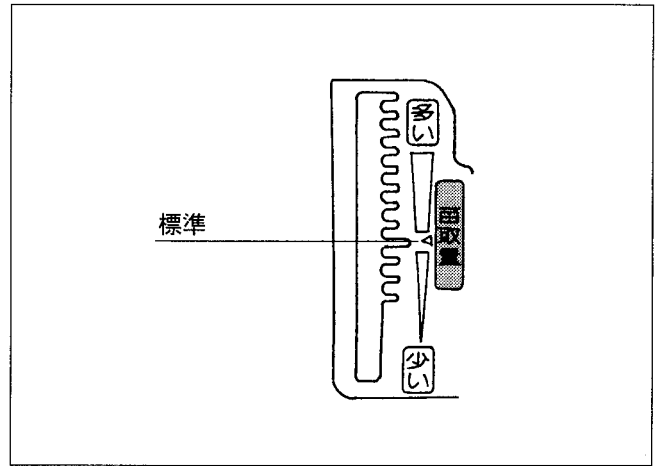
●部品交換をするときは、エンジンを停止してください。

⑨

■植付爪の調整

(1) 苗取り量調節レバーを「標準」位置にセットします。

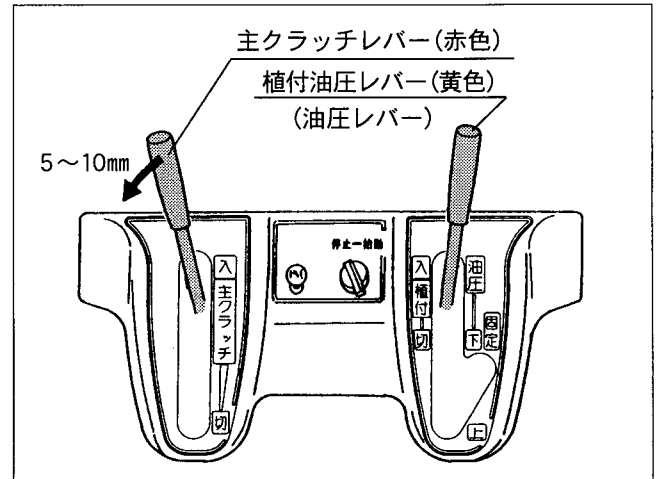
(2) 付属のナエトリクチゲージを図のように苗取出口にセットします。
(3) しゅう動板を固定している締付ボルト２本をゆるめます。
(4) しゅう動板を上下に動かし、植付爪の先端をゲージの「標準（長い線）」位置に合わせます。
(5) 締付ボルト２本を締付けます。

注意

●調整作業をするときは、エンジンを停止してください。

■各種ワイヤの調整

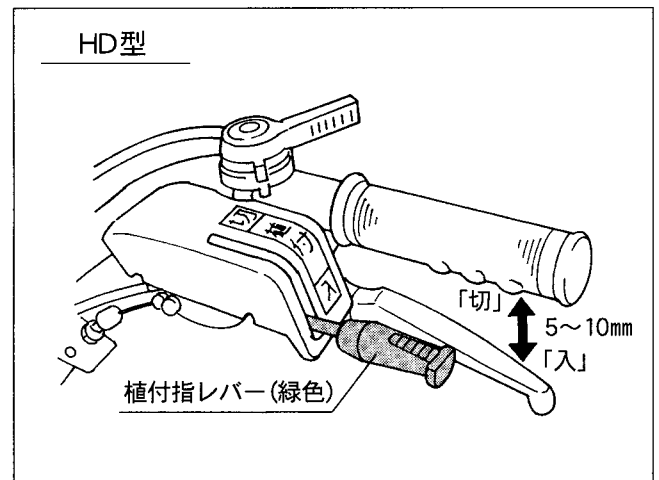
調整はワイヤの調節金具を伸縮させて行ってください。

●主クラッチワイヤの調整（赤色）

主クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にしたとき、レバー先端の遊びが５～10㎜になるように調整してください。

●苗のせワイヤの調整（灰色）

主クラッチレバーが「切」のとき、機体前部を地面につけて、機体が上昇しないように、また、レバー「入」のとき機体前部を地面につけて機体が上昇するように調整してください。

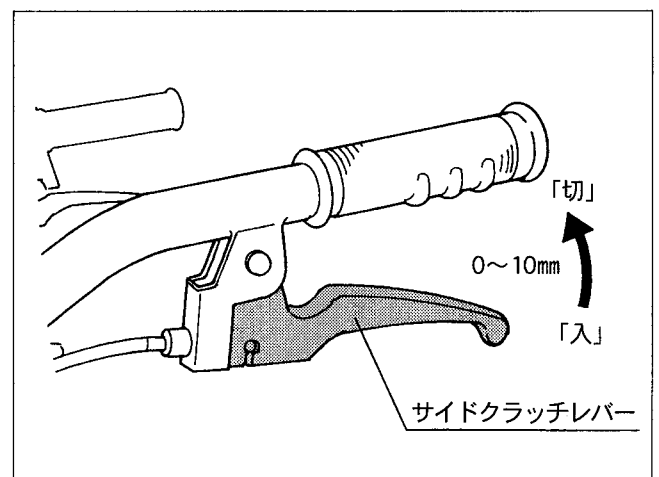
●植付クラッチワイヤの調整（緑色）

植付油圧レバーが「切」（HD型…植付指レバーが「切」）で確実にクラッチが切れレバー「入」のとき確実にクラッチが入いるようにレバー「切」のとき、レバー先端の遊びが５～10㎜になるように調整してください。

●油圧ワイヤの調整（黄色）

植付油圧レバー（HD型は油圧レバー）が「上」で機体が上昇し、「下」で機体が下降するよう調整してください。

●サイドクラッチワイヤの調整（黒色）

サイドクラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れるようレバー「入」のとき、レバー先端の遊びが０～10㎜になる様に調節金具で調整してください。

⑨

⑩ 長期格納時の手入れ

長期格納時の手入れ

注意

(1)点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止させて行ってください。
(2)燃料抜取時は火気厳禁。
(3)燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。火災の原因になり大変危険です。

■作業後の手入れ

(1)作業後、その日の内に水洗いし、回転部などに巻き付いたゴミなどをきれいに取り除いてください。
(2)水洗後、水滴を十分ふき取ってください。
(3)回転部、しゅう動部にたっぷり油をさし、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。注油カ所の点検と補給は18~19ページを参照してください。

■長期格納時

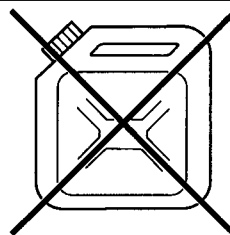
(1)格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定しましょう。

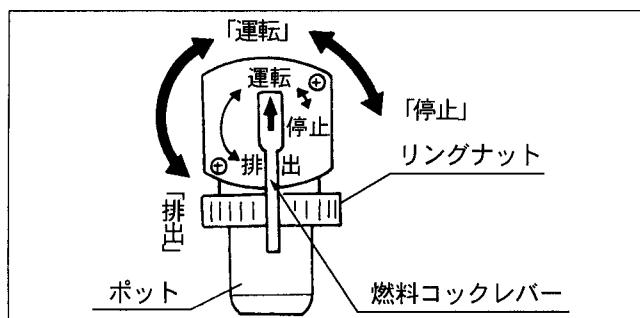
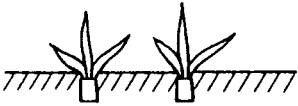
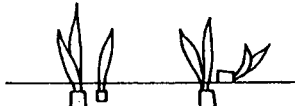
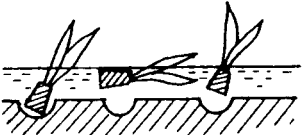
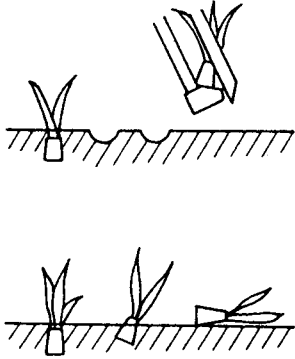
警告

●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です

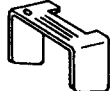
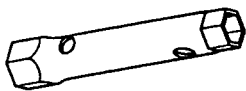
(2)燃料は必ず抜き取ってください。
①燃料タンク・気化器
燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。

重要

●燃料のガソリンを保管するときは、必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると、ガソリンが樹脂成分を熔解したり、紫外線透過によりガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となります。

危険

●放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。

②ポット
リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。
(3)機体を下げてください。
●HD型はハンドルをおりたたむと場所をとらずに小スペースで格納できます。

⑪ 不調時の診断と処置

点検調整するときは、必ずエンジンを停止してください。

不調の内容	原因	処置方法	参照ページ
苗がバラけて植わる。	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●苗に水をかける。 ●植付速度を遅くする。	31
	●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。	
	●植付速度が早すぎる。	●植付速度を遅くする。	31
苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	●根張りのよい苗を使う。 ●苗に水をかける。	
	●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。	
植付爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。	●ほ場が硬い。	●水を1～2cm入れてほ場の表土を軟らかくして植える。	
	●砂質系のほ場。	●代かき直後に植える。	

不調の内容	原因	処置方法	参照ページ
苗が植付爪より離れず欠株、又は苗がコロブ。	●苗床が粘土質で粘りが強い。	●苗床に十分水が含む様、水をかける。	
	●粘土質のほ場で水が少ない。	●ほ場に水を１～２cm程いれる。	
	●植付深さが浅過ぎる。	●植付深さを深くする。	29
	●植込フォークの押し出しが遅い。	●植付アームに注油する。 ●ギヤーオイルを約10cc程度注油栓をはずして注油する。	9
フロート通過跡に泥水が流れ込み植付けた苗が倒れる。	●ほ場の上が軟らかすぎる。	●ほ場を硬くする。	
	●水が多過ぎる。	●水を少なくする。 ●植付速度を遅くする。	31
植付アームで苗を取らない、又は、苗取りが不十分。	●苗取り量が少ない。 ●播種量が少な過ぎる。 ●播種ムラ、生育ムラがある。	●苗取り量を多くする。	30
	●植付爪が変形あるいは摩耗している。	●新品と交換する。	
	●苗送りが少ないあるいは多過ぎる。	●苗取り量を調節する。	30

⑫ 付 表

主要諸元

<table>
<tr><td colspan="3">名称</td><td colspan="2">Joywalk(ジョイウォーク)</td></tr>
<tr><td colspan="3">型式名</td><td colspan="2">JP2</td></tr>
<tr><td colspan="3">区分</td><td>D</td><td>HD</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td colspan="2">全長 (mm)</td><td colspan="2">1850</td></tr>
<tr><td colspan="2">全幅 (mm)</td><td colspan="2">860</td></tr>
<tr><td colspan="2">全高 (mm)</td><td colspan="2">790</td></tr>
<tr><td colspan="3">重量 (kg)</td><td>77</td><td>79</td></tr>
<tr><td rowspan="7">エンジン</td><td colspan="2">型式名</td><td colspan="2">GH100</td></tr>
<tr><td colspan="2">種類</td><td colspan="2">空冷4サイクルOHVガソリンエンジン</td></tr>
<tr><td colspan="2">総排気量 (ℓ)</td><td colspan="2">0.098</td></tr>
<tr><td colspan="2">出力/回転速度(PS{kw}/rpm)</td><td colspan="2">2.0{1.5}/1700(最大)3.2{2.4}</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用燃料</td><td colspan="2">自動車用無鉛ガソリン</td></tr>
<tr><td colspan="2">タンク容量 (ℓ)</td><td colspan="2">1.8</td></tr>
<tr><td colspan="2">始動方式</td><td colspan="2">手元リコイル式</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行部</td><td colspan="2">車輪上下調節</td><td>油圧式自動上下調節</td><td>油圧式自動上下左右調節</td></tr>
<tr><td rowspan="2">車輪</td><td>種類</td><td colspan="2">ゴムラグ車輪</td></tr>
<tr><td>外径 (mm)</td><td colspan="2">600</td></tr>
<tr><td colspan="2">変速段数 (段)</td><td colspan="2">前進2(植付1)・後進1</td></tr>
<tr><td rowspan="7">植付部</td><td colspan="2">植付方式</td><td colspan="2">クランク式</td></tr>
<tr><td colspan="2">植付条数 (条)</td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td colspan="2">植付条間 (cm)</td><td colspan="2">30</td></tr>
<tr><td colspan="2">植付株数 (株/3.3㎡)</td><td colspan="2">60・70・80</td></tr>
<tr><td colspan="2">植付深さ (cm)</td><td colspan="2">1.9～3.7(6段)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">一株本数調節方法 (mm/株)</td><td>横送り</td><td colspan="2">11.7(24回取り)</td></tr>
<tr><td>縦かき取り</td><td colspan="2">8～19(レバーワンタッチ)</td></tr>
<tr><td colspan="3">植付速度 (m/秒)</td><td colspan="2">0.3～0.66</td></tr>
<tr><td colspan="3">作業能率 (分/10a)</td><td colspan="2">53</td></tr>
<tr><td rowspan="3">苗条件</td><td colspan="2">苗の種類</td><td colspan="2">マット苗</td></tr>
<tr><td colspan="2">草丈 (cm)</td><td colspan="2">10～20</td></tr>
<tr><td colspan="2">葉令 (葉)</td><td colspan="2">2～4</td></tr>
<tr><td colspan="3">予備苗とう載数 (箱)</td><td colspan="2">1</td></tr>
<tr><td colspan="3">安全鑑定適合番号</td><td colspan="2">申請中</td></tr>
</table>

標準付属品

形　　　状	型 式	品　　　名	部 品 コ ー ド	個 数
	全 型 式	マニュアル （オペレーション／JP2）	PC001-97511	1
	全 型 式	ナエトリクチゲージ	LWP01-00021	1
	全 型 式	ツール（レンチ）21	LWP01-00031	1
	全 型 式	ナエトリイタ	PJ901-89121	1

主な消耗部品一覧表

形　　　状	型 式	品　　　名	部 品 コ ー ド	備 考
	全 型 式	プラグ(NGK BP2HS)	12045-67711	
	全 型 式	各ケーブル	純正部品表を参照して下さい	作動が重くなったら交換
	全 型 式	ウエツケヅメ(RHS13)	PK401-5371-0	摩耗時又は変形時交換
	全 型 式	ガイド(ナエアンナイ)	LWP01-00041	
	全 型 式	スライダー	PJ901-21621	摩耗時交換
	全 型 式	ナエタンクローラ	PJ901-20981	
	全 型 式	しゅう動板（マエイタ２）	LWP01-00051	

※上記消耗部品は、ほ場条件あるいは使用状況等により耐久時間が異なり交換が必要になります。
なお、その他の消耗部品をご注文の際は、お買い上げいただいた先に純正部品表（パーツカタログ）を準備していますので、そちらでご相談ください。

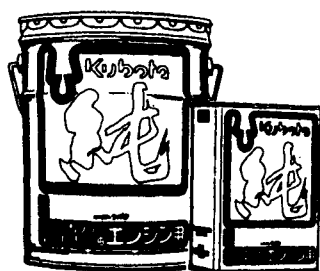
注文部品一覧表

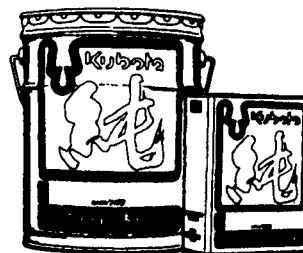
No.	SET品名	部品コード	対象型式	参考情報資料
1	ギヤー（オクリ／20）　SET	LWP01-00061	全型式	中苗を植える場合
2	フォークピース	LWP01-00071	全型式	
3	ウエイト２　SET	LWP01-00081	全型式	
4	ゴム車輪	LWP01-00091	全型式	
5	ギヤー（カブマ／40）　SET	LWP01-00101	全型式	

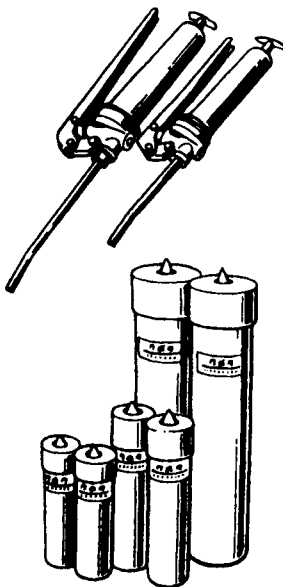
クボタ純オイル

オイルは**クボタ純オイル**をお使いください。

●オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

●エンジンには
クボタ純オイル
G30又は、G10W30
ガソリン・灯油エンジン用

Z-1022

●田植機本体には
クボタ純オイル
ミッション用
スーパーUDT又は、NEW・UDT

Z-1021

●グリスアップには
クボタスペアグリース

Z-1026

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは販売店又はJA(農協)へご用命ください。

PC001-9751-1最終頁

⑫

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず、購入先へ　ご相談ください。

おぼえのため、記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－
ご購入日	型式名	区分
車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

事業所	電話	郵便番号	住所
機械札幌事務所	電（011）662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所	電（048）862-1121	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所	電（0722）41-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所	電（092）606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号

株式会社クボタアグリ東日本

事業所	電話	郵便番号	住所
秋田事業所	電（0188）45-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所	電（022）384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京事業所	電（048）862-1124	〒338-0832	浦和市西堀5丁目2番36号
新潟事業所	電（025）285-1261	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号

株式会社クボタアグリ西日本

事業所	電話	郵便番号	住所
金沢事業所	電（0762）75-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋事業所	電（0586）24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪事業所	電（0722）41-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子事業所	電（0859）33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山事業所	電（086）279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松事業所	電（0878）74-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

事業所	電話	郵便番号	住所
福岡事業所	電（092）606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘2丁目2番76号
熊本事業所	電（096）357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　PC001-9751-1